

(表紙)

慶応四戊辰年九月八日
 改元 明治元年
 日記帳
 正月 大吉日

慶応四辰年日記帳

大 五、政事も替る、三世二八国の名も

大 霜シホル州、金子十る王

小 正水も四もに聞ふことも七九

小 六、慈悲乱国、こゝに極る

右之通前表ニ而、大小出来候も、全国の困窮する基と、後日ニ考候

間、記置もの也

大 変の大將はしり、曆苦勞有て拾三ヶ條の不調法

兼てより、噂も高き薩長土

大 三、五十二勝て霜は悦ひ

小 正、四なり、極め四、会津も九ひ違

小 慶喜も落て、六、こふ勢もなし

慶応元年正月元日〜四日

右之通上方辺ニ而出来候間、写置候もの也

慶応四辰年正月元日庚戌 天氣

一、鎮守牛頭天王様江參詣仕候

正月二日辛亥 天氣 喜兵衛・安平

一、山田屋氏・青梅屋氏同道ニ而、御藏前不動様、浅草觀世音様江參詣仕候

正月三日壬子 天氣 儀左衛門・庄次郎

一、昨日夕行事五兵衛明ヶ申候

正月四日 甚右衛門・安兵衛番

一、当月く組月番ニ付、頭取共願出候義有之当町江惣町寄合之上、

御堀端江町々人足老人ツ、頭取世話番老人ツ、道具持其外共

都合廿老人宛昼夜相詰罷在、依之人足老人ニ付、昼夜手間賃四百

文、弁当代老度貳百文ツ、都合老賃貳百文ツ、ニ而相勤可申答

ニ而、取極置候処、小夜飯老人分貳百五拾文ツ、差出呉候様、申

聞候ニ付、依之寄合之上、明五日夕老町限り、人足惣出ニ而外ニ

頭取老人・世話番・道具持式人・行事老人、都合拾老人宛罷出可

申旨相談相調候間、其段高嶋氏江申出、頭取共江申渡候、明五日

之義者、当町ニ而焚出し可仕旨、相談相極申候

慶応四年正月四日〜七日

一、市中五ヶ所江関門出来ニ付、同夜五ツ時詰合御免被仰出候、依之寄合之節、伝老武蔵屋ニ而蕎麦三貫文、温鈍代老貫文相調、惣町行事衆江差出候間、代錢立替候ニ付、為心得と記置申候、以上

正月五日甲寅 天氣 藤七・鉄五郎

一、例之通高嶋氏江書役一同罷出、年頭御祝義申上、年頭錢相包候後、馬込氏江罷出候、年頭番是迄相狂候ニ付、今般相改、塩老・塩式兩町ニテ可罷出筈取極申候、来巳年義者塩三・伝兩町ニ而可罷出筈組合申候

一、昨夜四谷御門外人足詰合之義、御免相成候ニ付、去卯年十二月廿八日迄昨日迄、人足老入昼夜老貫五百文ツ、町々ニ而可相渡筈、外ニ頭取老入・世話番老入・道具持式人、都合四人之義者、是又同様老入昼夜老貫五百文四人分ニ而、昼夜相勤候賃錢三拾三貫六百文之義者、く組月番町ニ而立替、相渡可申筈取極申候

一、去卯年十二月廿八日迄、人足とも義、小夜喰焚出候ニ付、老入分式百五拾文ツ、月番江取集、頭取共方江相渡候様、申聞候ニ付、当町ニ而受取書差出可相渡筈、尤昼夜人足老入老貫式百文ツ、可相渡筈之内、式百五十文ツ、差引而、残錢九百四十八文ツ、是亦可相渡筈

一、金六兩老分三朱ト三貫六十四文、三井口入

正月六日乙卯 天氣 清吉・庄吉

一、今日大伝馬町江年頭年番ニ而、当町・塩式兩町ニ而罷出候
一、町内ニ而者、居付地主相木屋惣吉・伊豆屋五郎兵衛・田中屋市右衛門右三人新規ニ付、同所江罷出候

正月七日丙辰 庄三郎・秀次郎

一、今日頭取幾太郎・久右衛門兩人罷出候ニ付、町々を取集候老ケ町老貫五百文ツ、之義者右兩人相渡申候

一、頭取・世話番・道具持兩人、都合四人、老入分老貫式百文ツ、都合三拾三貫六百文、前書兩人江相渡申、右立替之内拾九貫六百文富山ニ而立替貫申、拾四貫文之義者簞笥町を受取錢之内ニ而相渡申候、依之記置もの也

一、八ツ時頃青山通出火、弁当焚出し老度、尤人足之義者、西之久保四ツ辻迄罷越、引取申候

一、同夜五ツ時半頃青山通出火、同断弁当老度焚出し、此度義者人足六道辻迄罷越申候

一、同夜八ツ時半頃湯島三組町横切通しを出火ニ而、人足之義者、飯田町江相詰申候、弁当焚出し老度、北風烈敷候ニ付、七軒町市兵衛殿同道ニ而、新銀町其外江出火見舞罷越申候、尤弁当焚出し都合四度

今日を行事庄次郎

正月八日丁巳 天氣 備社二付、家主双出^(マ)

一、田中屋・伊豆屋之義者、直家守二付、金貳分ツ、

一、上総屋喜兵衛・鼈甲屋鉄五郎兩人義者先例老分ツ、

一、嘉七悴三次郎□代ニ罷出候ニ付、金老分差出し申候

依之先例之通自身番屋ニ而、舞振相濟申候^(マ)

正月九日戊午 天氣北風烈敷 番庄三郎・兵藏

一、当日之義者、備社之跡取仕舞仕候

一、忍原寄武太夫聞ニ罷越申候、同人義者、花上野志度寺、小武太夫義者、白石新吉原の段を相語申候

一、地代老ヶ年老坪何程、町入用同断何程差出し可申旨取調書并町内家数并惣人数・召仕共人別書上ヶ相成候もの、月当ニ而書上差出申候

一、加々屋^(マ)ヶ錢四貫文貸受、伝老武藏屋江蕎麦代ヲ相払申候

一、八貫四百文加々屋^(マ)ニ而借受、内老貫貳百文差引、殘錢六貫九百文

喜三郎江相渡申候

一、去ル六日、儀左衛門殿ヶ九貫六百文受取、内金老分貳朱ト拾六匁

御伝馬金正月分引、外ニ金三朱ト貳百三十四文下水浚入用割受取、

差引^三ノ貳貫九百四十六文、去暮御伝馬金老分貳朱ト貳百九十貳文

之内三貫九百四十六文ニ而差引候得者、百四十六文不足

正月十日己未 天氣 清吉・惣七

一、今朝虎御門金毘羅様并奥州塩竈様江参詣ニ罷越、四ツ時前相帰申候

一、早朝玄関^(マ)ヶ配府ニ付、罷出候処、惣町地主并家守、軒別家数、明

店共書上、家数不加江^(マ)、人数之義現在ニ書上可申旨達しニ付、玄

関ニ而美濃紙四ツ折帳面ニ相認、差出旨達しニ付、伊賀町佐吉、新

老新次郎、御簞笥町半次郎、伝式忠助殿、伝三利兵衛殿并手前共

玄関ニ而花村并当ヲ取之、屋支度仕候、尤代金貳分式朱也、代地

小松すしニ而茶くわし之金老分、すし取之、夕支度之義者、魚源

ニ而金三分式朱ト五百拾六文、伝式忠助殿立替相払申候

正月十一日庚申 天氣 清次郎・安右衛門

一、千葉氏御貸付金喜多村役所ニ而、当辰正月ヶ来ル午年正月十一日

迄三元利共上納可仕旨被仰渡候

正月十二日辛酉 天氣 清次郎・珍平

一、今日ヶ甚右衛門行事、十六日迄

一、昨十一日頭取幾太郎義罷越、定例之通金三兩、人足給分貸與候様

申聞候ニ付、山田屋氏ニ而立替遣申候

一、今日曉七ツ時、町火消五番組内く組人足惣代頭取老人、同断月行

事惣代老人、四谷伝馬町名主、北御番所江可罷出旨御差紙ニ付、

罷出候、尤頭取義者、塩三久右衛門罷出候、龍吐水月番之義者、

当町ニ而徳兵衛罷出候処、大和守様御白洲ニおゐて、旧臘廿二日

慶応四年正月十二日〜十六日

二ノ丸炎上之処、早速欠付^(墾)、御場所柄故身命不厭踏留り、消留候
二付、御多門其外無別条、依之為褒美老、式番組、五番組之内く、
や・け組、六番組、八番組江鳥目式千貫文為取遣へく旨可仰渡候^(マ)、
其餘組々之義者、遠方之処早速欠付候二付、奇特之義二付、一同
誉置旨、是又被仰渡候

一、当町珍平店弥助後家きち義、相手方へ申通し、今十二日五つ時小
出大和守様御番所江、公事合として可罷出旨被仰渡候二付、宝泉
一并惣録屋敷へ罷出申通候処、当日之義者御用多二付、追而御沙
汰之旨、猶又被仰渡候

一、靈岸島川島が、今日炭八拾表被遣候二付、不残山田屋裏江積置申
候

一、今日本町三丁目帳面屋江御触帳老冊相頼候処、代銀廿七匁五分二
而、則為手付と金老分相渡置申候、為後日記置もの也

正月十三日壬戌 天氣 珍平・嘉七

一、今十三日五つ時、刻限無遲滞、小組合頭取老人、月行事老人、北
御番所江可罷出旨、麴町矢部氏が差紙被相越候二付、幾太郎召連
罷出候処、御白洲ニおゐて、南北御年番方御立会ニ而、此度町火^(マ)
御抱入ニ相成候間、鳶人足惣町ニ而四千三百六十三人有之候間、
右ヲ三步一差出可申旨、尤人撰場所之義者、新大橋向建添地ニお
ゐて人撰致し、町会所建添地ニ普請出来迄者、越中島調練場ニお
ゐて稽古為致、尤毎日町内江差返可申、且惣町ニ而木戸番人・抱

番人凡千七百拾五人程有之、強壯之もの人撰之上、是又同断稽為^(マ)
致可申旨被仰渡候、依之市中一同右者迷惑之由申立、尤支配之義
者、町火支配役、番組人宿肝煎被仰付候、依之頭取一同御免願可
致旨申聞候間、手間取れ、同夜御番所五つ時頃、漸引取申候、宅
江罷帰り砌者五半時頃ニ御座候^(マ)
一、同夜八つ時頃が雪降出し申候

正月十四日癸亥 雪降 嘉七・喜兵衛

一、今五つ時頃、赤坂田町吉田屋ニ而、昨十三日被仰渡候人足之義、
現在有之候ヲ三分一書出し可申旨、被申越候二付、幾太郎外行事
老人差添罷出候処、く組人足九拾式人三分引、六十四人之内三分
一、廿老人と書上申候

正月十五日甲子 曇 喜兵衛・安平

一、今日何れ江も不罷出、清助義者牛込原町迄御用状使ニ罷出申候
一、同夜七つ時頃、市谷自證院統東長寺出火有之、出鐘打候二付、弁
当焚出し老度

正月十六日乙丑 天氣 儀左衛門・五郎兵衛

一、町火一条二付、南御番所江、小組合月行事老人・名主老人つゝ可
罷出旨被仰渡候

正月十七日丙寅 天氣 五兵衛・庄次郎

一、行事安兵衛、来廿一日迄

一、五番組大世話番、け組山中氏宅江罷越、二ノ丸出火 御褒美く組
受取高 (マ マ)

正月十八日丁卯 天氣 鉄五郎・藤七

一、麴町拾三丁目伊兵衛地借半次郎方屯所相成候ニ付、去月卅日迄金

七拾四兩餘、諸入用相掛候ニ付、同所難渡之趣度々願出候間、

惣町相談之上、大中小と高下相付、左之通り割合仕候

一、高金七拾兩と見積

内

金四拾八兩也

八ヶ町分

壹ヶ町六兩つゝ

麴町拾叁丁目

同町拾式丁目

同町拾三丁目

伝馬町式・三丁目

塩町壹・式・三丁目

金七兩也

壹ヶ町三兩式分つゝ

金拾貳兩也

壹ヶ町三兩つゝ

但右之内江市谷七軒町を金壹兩助成之積

金壹兩也

新堀江町

金貳兩也

天徳寺門前町

右之通割合相極メ、来ル廿日初寄合之砌、右町々否哉可申
聞答取極申候

正月十九日戊辰 天氣 忠兵衛・庄三郎

一、昼四半時頃、伝馬町新壹丁目多三郎店古着渡世元藏居宅を出火致

し、中屋源七宅を焼止る、伝式方江者亀屋平助殿宅を焼止る、

長延三拾九間、裏行平均九間程類焼仕候

一、右ニ付、御番所を御出役有之、火元調絵図大泉宅を仕候、御出

役方八人、名主方拾人、其外二而夕七つ時頃相済申候

一、同日町火一件ニ付、五番組世話番名主方を頭取人足一同召連可罷

出旨、廻状ニ付、裏町久右衛門、拾三丁目其外同道を、赤坂丸

屋半七方江寄合を罷出候处、五番組人足一同区々不相成様、く

組人足書上高、三分一人足廿老人、外ニ差添罷出候頭取式人、都

合廿三人分、老人ニ付、金貳兩つゝ前書致度旨、頭取共を世話番

名主江願出候ニ付、世話番名主を前書之次第被申聞、否哉之義支

配名主方江可申出旨被申渡候間、諸入用・席料相払、同夜五つ時

頃引取申候

正月廿日己巳 天氣 秀次郎・兵藏

一、定例之通、四谷坂町遠州屋宅におゐて、く組初寄合有之、無滞相

慶応四年正月十七日〜二十日

慶応四年正月二十日〜二十五日

濟申候

一、昨夜赤坂ニ而寄合有之候一件、明日ニも町火差出候義、御沙汰有之義も難計候間、早朝猶亦急場寄合有之、前書老人ニ付、金貳兩つゝ前借否哉相談之上、披露仕候処、出銀之義者、惣町ニ而差出可申約定ニ而、右人数ニ可致答相談仕候

正月廿一日 惣七・清吉 庚午 天氣

一、前書寄合入用、富山ニ而金三拾兩前借仕候
一、塩三書役利助一件ニ付、同町江罷越申候
一、忍町末広江罷越申候

正月廿二日 辛未 天氣 清次郎・安右衛門

一、金三分麴町拾三丁目屯所入用、同町家主六兵衛相渡申候、尤当月半月分ニ御座候
一、金拾五兩貳分貳式朱ト式匁也 遠州屋吉五郎私
一、金壹分也 同 所 席 料
一、金拾六兩貳分貳式朱ト式匁也私
一、金壹分也 町内出銀分

三口ノ金拾六兩三分貳式朱ト銀貳匁也

差引ノ金拾三兩ト銀五匁五分 残分

内金五兩也

山田屋氏江相渡申候

差引金残ノ金八兩ト銀五匁五分

正月廿三日 壬申 天氣 清次郎・珍平

一、珍平店弥助後家きち義、北御番所江呼出し、初吟味磯貝悦次郎様御懸り、来廿八日出

一、金貳兩ト三百六拾八文、七分積金立替納、月番新老丁目方江相渡申候

(綴じ袋部分に入る)

一、 覚

一、 金壹分式朱ト 御伝馬金

四百九十式文

一、〇金三朱ト 下水浚入用

貳百三十四文

一、〇金壹分式朱ト 三井納

十六文

一、金壹兩ト百四十六文

右之通り儀左衛門殿立替申候」

正月廿四日 癸酉 天氣 嘉七・安平

一、く組勘定仕候間、明日町内番屋江罷越候様、廻り廻状差出申候

正月廿五日 甲戌 天氣 儀左衛門・喜兵衛

一、く組入用勘定、定例之通割合仕候、寄合之上、先達而新老出火之砌、大泉へ出役有之諸入用不都合之廉合有之、多分出金有之候而者、町内名目ニも相懸り候義ニ付、出役方・名主方・行事其外ニ而、廿六人前さし、煮さかな差出し、跡四人之義者、新老家主其外都合三拾前（マゴ）有之候処、三拾五人前と相改メ、書付差出候ニ付、五人前多ク相成候間、惣町寄合之上、右之分三拾五人前分之内、五人差引、残金割合勘定可仕旨相極、外ニ席料金老兩也被書出候得共、先例金三分ニ而仕来有之候間、是又定例之通可書出旨被申聞候、依之勘定割合仕候間、記置もの也

正月廿六日乙亥 五郎兵衛・五兵衛

一、安兵衛地借尾張屋十兵衛義、元浜町西角の四軒目、表京間三間、裏巾同断、奥行式拾間有之町屋敷老ヶ所、此度右家主鉄五郎右兩人より北御番所江御添願願罷出、尤御作事方御役所江罷出度旨、御訴訟仕候処、明後廿八日可罷出旨被仰渡候

一、忍原末広席江罷出候処、武太夫義、桂川連理柵帯屋の段、小武太夫先代菴御殿の段相語申候

一、七分積金七月の兩ニ九貫文之相場ニ有之候処、錢相場格外下落相成候ニ付、今般相改メ申候、金老兩ニ付、拾貫五百文相場ニ相改、百文ニ付、錢十七文つゝ相増申候間、記置もの也

正月廿七日丙子 庄次郎・甚右衛門

慶応四年正月二十五日〜二十八日

一、町入用下勘定仕候、尤相場之義者、兩ニ九貫八百文相場ニ入置申候

一、加賀屋先代旦那七回忌ニ而、志之膳部有之候

正月廿八日丁丑 天氣 安兵衛・鉄五郎

一、昨廿七日の行事藤七、二月三日迄

一、安兵衛地借十兵衛義、元浜町家主鉄五郎所持家作・地所共、此度廿六日相願候処、今日可罷出旨被仰渡候間、今日相伺候処、勝手次第御普請方御役所江可罷出旨被仰渡候

正月廿八日 八つ時頃、家主清次郎殿祖母病死仕候

一、葬式之義者、来ル明廿九日八つ時之由取極申候

一、先達而十二月十四日、廻町拾三丁目屯所入用割合有之候処、名主所ニ而、今般之入用義者、町入用ニ相懸候義者難相成旨、被申聞候ニ付、今般寄合之上

一、金拾兩也

内金三兩也

富山出銀

金老兩つゝ

加々屋 田中屋 丹羽長 相木屋

金式分つゝ

富田氏 重元氏 三甚

金式分也

かし通り

金老分也

河内屋 富山

メ拾兩也

慶応四年正月二十八日（二月五日）

右之通割合夫々江承合候処、^(マ)睨と決者不相成候得共、^(マ)有増者取極申候

正月廿九日 忠兵衛・庄吉 天氣 戌寅

一、今八つ時、家主清次郎母昨日病死ニ付葬式、寺者四谷天龍寺ニ而、夕七つ時相済申候

二月朔日己卯 雨降 庄三郎・秀次郎

一、安兵衛地借十兵衛義、御普請方御役所江罷出、願之通り御帳除ニ相成申候

二月二日庚辰 天氣 庄三郎・兵藏

一、珍平店きち義、宝泉一件、今日迄金五兩懸合相成居候処、尚懸合之上、金式兩増金ニ而都合七兩ニ相成、^(マ)来七日出
一、明三日出之町内ニ而寄合可仕筈ニ而、持廻り廻状差出申候

正月三日辛巳 天氣 惣七・清吉

一、清次郎母病死ニ付、^(マ)来月日迄、番相除キ可申事
一、今日屯所一件寄合仕候処、不都合之廉有之候ニ付、高七拾六兩老分銀式匁八分有之処、左之通

一、金五兩式分四百文 狼藉もの捕押へ、御番所江差送り候入用

右廉之義者、若屯所無之時者、町内懸りニ有之候処、右入用ニ

相懸候者、不都合之旨惣町行事衆中被申聞、依之懸合之上、右入用金高割

一、金式兩三分ト式百文 惣町ニ而入用割合仕候

一、銀四百匁 屯所四十日定詰行事手当

一、金式兩也 右同断ニ付、書役骨折遣ス

一、金三分也 右同断 定番人江

メ金五兩式分ト式百文

銀四百匁

皆金拾式兩銀拾匁錢式百文

差引メ金五兩三分式朱余、^(マ)残有候間、前書之内今般金七拾兩取集メ仕^(マ)仕候ハ、^(マ)残金五兩三分式朱余有之候間、右金子ニ而拾三丁目定詰行事・書役其外江手当可仕筈、相談之上取極申候、且御下ケ金有之候ハ、惣町江可割渡もの也

一、屯所江相詰罷在候処、今般御免相成候ニ付、席亭半次郎ハ惣町江

賦物有之、依之相談之上、大小中と割合、^(大町脱カ)金老分式朱つゝ、中町

老分つゝ、小町式朱つゝ、く組町々ハ都合金五兩ニ相纏メ、同所

江差遣可申筈取極、当町ハ相集申候

正月四日壬午 天氣 安右衛門・珍平

一、今日く組入用押切帳相認、押切印形取之、記置もの也

二月五日癸未 天氣 珍平・嘉七

本日〆行事忠兵衛、来ル九日迄

一、拾三丁目寿亭半次郎〆く組町々江、猪口老つ相賦候ニ付、拾老・拾式・塩老・塩式・塩三・伝式・伝三・忍・い賀・坂町・御簞笥町、〆拾ヶ町金老分式朱つゝ、伝老・新老義者、金老分つゝ、七軒町・新堀代地義者金式朱つゝ、都合金五両ニ相纏メ、寿半次郎方江遣申候、尤拾三丁目・本村町義者相除申候、依之前書町々江者書役中同道ニ而罷越度旨廻状為持廻候
同所狂言之義者、絵本太功記、本能寺より妙国寺尼ヶ崎之段、千鳥大夫相語申候、花上野誉石牌志渡寺の段、浪大夫相語申候、小児狂言ニて至而見事ニ出来候事

二月六日^(申)西 天氣 嘉七・喜兵衛

一、町入用勘定相済申候間、山田屋・肴屋同道ニて忍原末広席江罷越申候

二月七日^(西)戌 天氣 喜兵衛・安平

一、珍平店弥助後家きち〆、宝泉一江相懸候一件、今日迄金七両ニ懸合相成候処、今日猶亦金老両増金致し、八両金之懸合ニ相成、来ル十日出

一、伝三みち、きん一件、今日種々手数相懸り、明日武兵衛并半兵衛・庄五郎可罷出旨ニ而日延

〔繰し袋部分に入る〕
覚

慶応四年二月五日〆九日

正月十一日
一、金拾老両老分ト拾匁七分老厘 七かへ

右之通

辰正月

川島与兵衛

加賀屋五兵衛殿

一、靈岸島東湊町川島与兵衛罷越候二付、今日義者取込候間、両三日之内罷越候様申聞、相帰申候
去月十一日八拾表被相送候炭、両二七表がへ、金拾老両老分ト拾匁七分老厘

二月八日^(戌)亥 天氣 儀左衛門・五郎兵衛

一、く組入用取集仕候処、金式朱取集不足相成、夫〆品々相払候処、尚亦老貫文餘不足相成候間、残金七両買求メ、仕払候処、同日朝五つ時〆同夜四つ時頃迄相懸り候二付、依之白米老升式合、味噌其外買求、昼・夜喰相焚候間、金老分不足相成申候間、町入用〆金老分差出呉候様、山田屋氏江相願申候

二月九日^(亥)子 天氣 五兵衛・庄次郎

一、麴町・平河町南北御出役控所諸入用割老小間二付、銀四分六厘、通七ヶ町金六両式分三朱ト式匁六分三厘、四谷組合持支配分銀式百五拾老匁老分六厘也、右式口共鮫河橋谷町島田次右衛門殿方江

慶応四年二月九日〜十六日

持廻り、受取書取之もの也

一、同夜九つ時頃四谷御簞笥町家主疊職伊三郎方より出火相成、同町・同所伊賀町・同所伝馬町新老丁目・麴町拾老丁目片側・拾貳丁目半町程・拾三丁目・伝馬町老丁目、メ七ヶ町類焼仕候、同夜七つ時頃鎮火相成申候

二月十日^(子)戌 天気 甚右衛門・安兵衛

一、今日何れも不罷出、跡取片付罷在候
一、伝老忠八殿類焼二付、何れも近所貸店無之候間、当分自身番屋中之間江差置申候

二月十一日^(丑)寅 天気 庄吉殿今日より行事、十八日迄

一、鉄五郎・藤七番

二月十二日^(寅)卯 天気 忠兵衛・庄三郎

一、加賀屋江味噌相場相直し候処、直亦□立相廻り申候、白上赤之義者、兩二六貫匁、百文二付五十五匁つゝ、

一、極印^(マ)兩二七貫五百匁、百文二付七十匁、上麦兩二七貫匁かへ

二月十三日^(卯)辰 降 兵藏・秀次郎

一、珍平店弥助後家きち一件、宝泉一義兩度不参二付、申上候処、明十四日出之御差紙遣し被下候趣被仰渡候間、依之記置もの也

一、伝三みち金一件、明十四日出

二月十四日^(辰)巳 みぞれ降 惣七・清吉番

一、弥助後家きちより相懸□一件、御利解相願候処、早速対談書差出可申旨被申聞候処、御□無之、明日出
一、伝三みち金一件、同断二付、明日出

二月十五日^(巳)午 天気 安右衛門・珍平番

一、弥助後家きち一件、御利解相願候処、懸合之上、拾貳兩増金、来十七日出

一、伝三みち金一件、来廿日出

一、伝貳半助地借国太郎、家持半兵衛右兩人義、常次郎・伊三郎一件再品渡し、追而御沙汰之旨被仰渡候

二月十六日^(午)未 天気 嘉七・喜兵衛

一、北御奉行小出大和守様御役御免被仰付候、依之右触出候間、記置もの也

一、今般高島氏類焼二付、見舞之義二付、七ヶ町寄合之上、左之通

一、金九兩也 高島氏定例

一、金四兩式分 塩崎氏江遣ス

但塩崎氏之義者、当時吟味中二付、依之惣町寄合之上、前書之通割合仕候

右之通り小間割半分、町割半分ニ而、割合老小間ニ付、銀四分八厘ツ、刻限延刻ニ相成候間、老貫七百文蕎麦買求メ支度仕候、依之割合相嵩申候間、記置もの也

一、同日昼八つ時頃、忍原寄江罷越、梶太夫義者、義経腰越状後藤生醉之段、大切ニ関取千両幟櫓太鼓勇造惣懸合ニ而相勤候間、記置もの也、大踊りニ御座候

二月十七日乙未 雨降 安平・儀左衛門

一、今日義者、万長席江罷越申候処、咲太夫吉作義者、一ノ谷嫩軍記三段目、若狭太夫鶴原義者妹背の門松質見世の段、梶馬太夫忠臣藏六段目、咲見太夫絵本太功記尼ヶ崎之段相語申候

二月十八日丙申 曇 五郎兵衛・五兵衛代喜兵衛

一、当日義者、備社其外残勘定仕候処、同店時絵師吉五郎殿義、昨夜病死ニ付葬式、寺者日蓮宗ニ而千駄谷(吉藏力) 立法寺力 吊ニ罷越、同日暮六つ半時頃漸引取罷越申候

二月十九日丁酉 天気 庄次郎・甚右衛門番

一、今日義者、別段用事無之、忠兵衛店藤次郎父銀右衛門義、北定廻り様江書面差出候計ニ而、組屋敷江者不罷出、尤定吉一件ニ御座候、同人義者伝馬町老丁目新道花屋吉五郎悴ニ御座候

二月廿日戊戌 天気 安兵衛・鉄五郎

一、加々屋仁兵衛葬式、朝五つ時、寺者谷中妙福寺旦那ニ而、昼八つ時頃相済申候、帰りかん鋪ニ而支度仕候、代金三両式分式朱卜四十八文かゝり申候、帰り夕七つ時相帰申候

二月廿一日己亥 大風 藤七・忠兵衛

一、一昨十九日夜九つ時頃、四谷愛染院自火ニ而焼失相済申候(マ)
一、兎角不隠成候ニ付、町内重立候方々申合候而、鎮守・天王様ニ而大般若理越(趣力)万経并町内安全之護摩相焚、大札式拾四枚、小札百五拾枚相賦申候、尤菊屋ニ而金沓分式朱菓子買受、夫々江相賦申候

二月廿二日庚子 天気 庄吉・秀次郎

一、昨夜四半時頃、麴町河岸通り五番町戸川様が出火ニ而、小堀様・永井様・南部様出火、(マ) 漸夜九つ時頃引取申候、弁当焚出式度
一、忍原寄江罷越申候、梶太夫・呂角齋其外ニ而罷越候処、梶太夫義者不参ニ付、半札相成申候

二月二十三日辛丑 曇 兵藏・惣七

二月廿四日 忠兵衛、清次郎相除安右衛門

一、今日高島氏一件ニ付・惣町寄合、今日早朝と申趣ヲ以、当町番屋江寄合候処、当節柄之義ニ付、先達而定例金九両取集候ヲ其候

慶応四年二月二十四日〜三月五日

町内ニ預り置候処、今般寄合之上、金貳拾壹兩急取集仕、合金三拾兩ニ致遣し候筈ニ而割合仕、来廿七日取集候積ニ御座候

二月廿五日 嘉七・珍平番

一、今日く組初寄合、勘定本村町ニ罷出申候

二月廿六日 嘉七・珍平 天氣

一、伝式近半一件呼出し并みち金一件呼出し、来晦日出

二月廿七日乙巳 天氣 喜兵衛・安平

一、今日町入用下勘定仕申候、尤今日通七ヶ町高島氏一件取集仕候

一、珍平店弥助一件呼出し、金拾六兩懸合ニ相成候間、来ル廿日出

二月廿八日丙午 天氣 喜兵衛・儀左衛門

一、町入用押切帳共認メ候得共、当月義者玄関義取込罷在候間、押切

印形不仕相賦申候

何れも今日者不罷出候

二月廿九日丁未 天氣 五郎兵衛・五兵衛

一、今日義者、番屋ニ而写物致し居候ニ付、何れ江も不罷越居申候

二月卅日戊申 天氣 庄次郎・甚右衛門

一、弥助一件、御番所出、金三兩懸合、来三日出

一、みち金一件、同人罷出、行衛相知不申候間、来四日出之日延相願申候

三月朔日己酉 天氣 安兵衛・鉄五郎番

一、忠兵衛店建場藤次郎義、南定御廻り様引合ニ而、松よし江罷出候処、纒之品物之義ニ付、金壹分式朱相渡、引合相除申候

三月二日庚戌 天氣 藤七・清吉番

一、自身番屋ニ而番致し居忠兵衛殿兩人ニ而、納め雖市見物に罷申候、当年義者白酒売切申候

三月三日辛亥 雨降 庄三郎・秀次郎

一、当日之義者、写物多分有之、京都表メ御軍勢御差向相成候趣、遥

ニ被聞召、東叡山江謹慎罷在候趣御触出候間、惣町書役呼上ケ、為相写候

三月四日壬子 天氣 惣七・清吉

一、今日義者、加々屋江罷越、同道ニ而万長寄七、靱太夫聞ニ罷越申候

三月五日癸丑 天氣 安右衛門・珍平

一、松ヶ根屋一件江罷出候処、金壹兩懸合有之候間、来八日出之御日

延申上、相帰申候

三月六日甲寅 天氣 嘉七・喜兵衛

一、昨五日加々屋三金五兩借受、三井金取集メ、前書三兩相足、相納申候

一、今日町入用取集相濟候後、庄吉殿同道ニ而、万長寄江罷越、韞太

夫義野崎村、国太夫義罷出不申、小韞太夫義佐倉宗吾獄門場の段相語申候、翁太夫義（北力）菅原板嵯峨の段

三月七日 儀（マ）左衛門・市右衛門 乙卯 天氣（マ）

一、今日写物多分有之候ニ付、自身番屋江惣町書役中相集候ニ付、昼

焚出し仕、左之通

一、拾式匁也

白米四升代

一、四百文

むきみ代

一、百拾六文

薪沓わ代

一、八十文

醤油沓合代

一、百四十八文

菜漬代

一、金沓分式朱也

酒沓升五合代

一、四百文

みそ代

一、銀四十六匁五分錢沓貫百四十八文

右之通諸入用相懸り申候

三月八日丙寅（辰） 天氣 儀（マ）左衛門・五郎兵衛

一、千葉氏一件ニ付、末広席亭江罷越候処、相模大掾義者新吉原揚屋の段、尤白石嘶大切懸合ニ而廿四孝四段目狐火之段相語申候、尤松ヶ根屋番所一件忠兵衛殿罷出、来十二日出

三月九日丁巳 庄次郎・甚右衛門 天氣

一、式番町久世様駿州表江出立ニ付、品川宿村田屋迄送りニ罷越申候、久世様義者御知行所江罷越御勅使出迎ひニ罷越申候趣申立候ニ付、

長州勢・薩州勢川崎宿江出張罷在候得者、同御屋敷義者無滞駿州表江相通申候、加々屋旦那義も中村五兵衛と相唱へ、御勝手方用人名目ニ而、同所江罷越申候

一、京師（軍力）が官官先手として、川崎宿迄出張罷在、依之江戸表（軍力）が上方筋

江罷越武方駄之者相改、同所（軍力）相通不申候、同宿（軍力）が上方辺道中筋宿々江、関東討手として薩州・大村并長州勢追々下向相成、依之

忍原横町花房様、番町五番町戸川様、麻布戸川様義者、御知行所備中ニ有之候間、同所江罷越候積（マ）ニ而、青山海道（丸手）まりこの渡江通り

懸り候処、同所渡船無之候間、無餘義六郷渡江相越候、途中池上本門寺へ一ツ橋様旅宿相成候間、同所大廻り致し候而、六郷川手

前江罷出候処、川向川崎宿ニ而官官先手同所ニ罷在候間、江戸表（軍）が上方筋江罷越候趣申立候処、先手薩州勢・大村丹後守并長州勢

夫々之先手人改ニ而差留、何れ江罷越候哉相尋候ニ付、知行所備中迄罷越候趣、重役江及談判候処、何れ京師江相窺候趣申聞、相

慶応四年三月九日〜十四日

通不申候間、前書屋敷三軒義者、品川宿ニ逗留仕り罷在候間、記置もの也

一、昨夜五つ時頃永田屋珍平殿宅江侍躰之男四人ニ而抜刃ヲ持金子可差出旨申威候ニ付、手元ニ紙入ニ入有之候金子三兩三分奪取、表之方江逃去申候

三月十日戊午 雨降 安兵衛・鉄五郎

一、今日珍平殿盜賊訴、北御番所江罷出申候、夫が御簞笥町半次郎殿同道ニ而金毘羅様江参詣ニ罷越申候、夕七つ時頃が雨降出し申候、尤以来書面之義者相届ニ不及旨御達有之、強盜之義者、南北隠密方御筆頭江計り可相届旨被仰渡候

三月十一日己未 天氣昼後が降 藤七・忠兵衛

一、尾州様御屋敷御上中下共、今日が三日之間ニ引払被仰付候
一、大出村飛脚出立ニ付、金子拾五兩相渡し申候間、記置もの也
一、一昨九日久世様義者、無滞駿州陣屋江罷越候間、記置もの他
一、今十一日義者、内藤新宿江薩州御人数下宿札旅籠屋伊豆橋江旅宿札相懸り申候

三月十二日庚申 雨降 正吉・庄三郎番

一、松ヶ根屋御番所金老両懸合有之、惣高廿式兩也、懸合相成申候、
来十八日出

一、四谷新堀江町半藏地借紺屋又右衛門方江、去ル八日夜侍躰之男五人連ニ而、抜刃ヲ持、裏入口戸困辞明ヶ這入、金三拾老兩、拵付脇差其外極上品奪取、逃去候ニ付、今日其段北御番所江御訴相成申候

家主惣七殿今日が来ル十九日迄行事

一、く組惣寄合伊賀町江相集候処、南北御廻り方式人、外ニ手先四人、都合六人つゝ出役有之、忍町金太郎方ニ而者悪敷候間、裏町可然旨被申聞、依之当分之内、四谷新堀江町結屋家主文右衛門宅当分借受申候

三月十三日辛酉 天氣 庄三郎・秀二郎

一、大伝馬塩町飛脚七郎兵衛殿方江罷越、出立を承り候処、明十四日出立之旨被申聞候

三月十四日 兵藏・惣七 壬戌 天氣

一、福しま飛脚七郎兵衛殿江対談仕り、簞笥老つ菰包ニ而、貫目拾三貫匁、葛籠老つ同断ニ而、貫數拾貳貫四百匁、惣貫數廿五貫四百匁、此駄賃拾三かけニ而、金五兩貳分ト銀貳分、右者上野村弥左衛門殿江為積送り候旨、送状遣申候

一、今十四日九つ時が、官軍先手として、土州様之御人数赤地ニ拾六之菊之紋所之御旗相立、白地ニ同断旗、都合ニ夕流の旗相立、内藤新宿江入込、制止聲ニ而内藤大和守下屋敷江這入申候、尤案内

として高島人数并高遠人数先払二而、同宿豊田屋二而賄方焚出し有之候標札有之候

一、同日昼八つ時頃、因州様御人数御着二而、御本陣と相見得、監軍陣営と相記候張札、同宿名主高松喜六方江張札有之候

一、因州本営と相記候札、同宿三河屋江同断相記有之候

三月十五日 安右衛門・珍平番、行事清吉

一、伝老忠八殿同道二而、武州多摩郡五反田村百姓^(マ) 方江葛籠

老^(マ)つ脊負参り相預ケ置相懸り申候、尤同宿江者行程凡六^(里)

一、三月十五日名主方江居付地主一同可罷出旨配府到着二付、罷越候

一、当時節柄御国恩相弁候もの共、冥加金上納可致旨被申聞、家主・地借・店借二不抱、上納可致由高島氏被申聞候二付、家主一同相談之上、金子調達当節柄二付、出来相成不申旨、名主方江相答申候

一、〇三月十六日甲子 天氣 珍平・嘉七番

一、今日何れも不罷出候、尤昨十五日稻毛行二而草臥、番屋二罷在申候

三月十七日乙丑 嘉七・喜兵衛 天氣

一、尾州様戸山御屋敷二而御払品出来候二付、見物二罷越申候処、品々下直之品有之候得共、餘り氣之毒二御座候間、直段等も相附不

申相帰り申候

一、今十七日晝七つ時頃、市谷七軒町萩屋庄兵衛殿祖母病死二而吊有之、尤寺者塩町式丁目浄土宗浄運寺二而、家主一同江忠召相触申候

一、今夕七つ時頃、内藤新宿江罷越候処、同宿之入口麴屋横町角二官軍人数兩側江出張、侍たるへきもの相糺、老人も相通不申候、同宿太宗寺横町同断、天龍寺表御門入口二も同断出張罷在候、帰り途中伝式二而高崇然之人物有之、懸物老幅買求申候、大木戸際二而鏡易之認有之書物同断

三月十八日丙寅 天氣 喜兵衛・安平

一、三月十八日弥助後家きちも宝泉一江相懸候出入、相手不参二付、惣録役所惣代源八殿江来廿四日出之日延之趣相達置申候、依之記置申候也

一、今十八日夜五半時頃大窪^(久保)辺二出火有之候

三月十九日丁卯 天氣 儀左衛門・五郎兵衛

一、今八つ時頃、高島氏も急配府二付、行事罷出候処、今朝官軍尾州様御屋形江入込候二付、御同人夜具千五百人前、今夕七つ時迄差出可申旨、市谷島田左内殿江被申渡候二付、右ヲ市谷・四谷・麴町江割合左之通り

一、三百四枚 麴町分 拾九ヶ町

慶応四年三月十九日〜二十日

一、百七拾六枚 四谷分 拾老ヶ町

右百七拾六枚割合左之通り

一、拾老ヶ町二割 老町分五布、蒲団二候ハ、拾六枚つゝ、夜具

二候ハ、拾六組つゝ

伝馬町老丁目、同町新老丁目、同町式、三丁目、忍町、伊賀町、

御簞笥町、坂町、塩町老丁目、代地、新堀江町、塩町式丁目、三

丁目江割合申候、尤新老丁目・新堀江町両町ニ而老ヶ町割、伝馬

町老丁目・天徳寺門前両町ニ而老ヶ町割合ニ取極申候

一、依之町内蒲団差出方割合左之通り

*四月廿八日

相済*

*四月廿八日

相済*



*四月廿八日

相済*

*四月廿八日

相済*

蒲団三枚 富山 五布蒲団



一、拾六人前

前書之通割合取集、市谷初音江差遣し申候間、行事清次郎同道ニ

而罷出候間、記置もの也

一、尤惣町割合之義者、当町通年番ニ付、町内へ寄合仕、前書之通割

合致置候もの也

一、同夜御屋形江申送り候処、同夜四つ半時頃、漸々引取来候間、支

度左之通り

一、五匁也

一、三百文

一、貳百文

一、百文

右之通焚出し仕候、依之記置もの也

三月廿日^成内辰

一、昨十九日納メ不足之分、数度催促仕、町内番屋江乎集取揃、官軍

方御役所江相納申候

三月廿一日己巳 天氣 庄次郎・甚右衛門

一、夜具納一件、老ヶ町金老朱ト式百四十四文つゝ、坂町相除拾ヶ町、外ニ新堀代地ニ而老ヶ町割

三月廿二日庚午 天氣 安兵衛・鉄五郎

一、今日淨運寺横町報恩寺江法談聞ニ罷越申候、尤山田屋氏并美濃屋氏同道ニ而同所江罷越申候、尤加々屋ニ而屯所金老兩差出候分者、山田屋氏江持參、箱江入置申候、甚右衛門店藤兵衛、金老分先達而兩家、預り置候分、山田屋氏江持參仕候間、記置もの也
一、金五兩也加々屋、借用仕候、尤帳面江者記置候もの也

三月廿三日辛未 天氣 藤七・忠兵衛

一、千葉氏江罷越候処、今日同所ニ而御哥之稽古御話有之候

三月廿四日壬申 天氣 庄二郎・兵藏

一、四谷伝老其外類焼町々、町会所ニ而御救米錢共被下候、尤正月九日類焼町々、伊賀町、新老、拾三、拾弍、拾壹、伝老、御簞筒町都合七ヶ町

一、四谷伝馬町老丁目名主、北御番所江呼出し、尤四谷御門其外御門之持場内ニ捨子其外異變有之候ハ、其前町最寄町々ニ而取計、諸入用之義者、町会所、被下置候様被仰渡候

三月廿五日癸酉 天氣 惣七・清吉

一、く組入用下勘定伊賀町江罷越申候
一、今日く組町々書役中給分まし銀匁ニ当分増相願可申答ニ而、約定取極申候処、寄合間ニ合兼候間、相延申候

三月廿六日甲戌 天氣 清次郎番

一、丹羽長右衛門殿義、堀江町式丁目越前屋と申漆問屋ニ而、清二郎と申もの方江罷越、呉服・反物類凡千弍百拾老兩餘差送り候処、代金不相渡、品物義者何れ江歟相隠し候ニ付、右一件ニ付、小網町式丁目小松屋喜八方迄忠兵衛殿并其外ニ而罷越申候

三月廿七日 清二郎・安右衛門

一、今日下勘定相済申候
一、丹羽長一件、小網町式丁目千とせと申水茶屋迄罷越申候

三月廿八日 嘉七・喜兵衛

一、丹羽長一件、今日懸合行届申候、尤小網町式丁目千とせ芳次郎殿方ニ而相済申候

三月廿九日

(ママ)

慶応四年三月三十日～四月九日

三月廿日

一、官軍方御役所江先達而相納候夜具之義、代金ニ而御下ケ可相成旨御達有之候間、其町々如例請取書相添、行事調印ニ而直段可差出旨御達有之候間、依之依之惣町書役中呼上ケ、相達申候、書付之義者高島氏江差出申候、記置もの也

四月朔日

一、内藤新宿江、甲州口

御勅使御入ニ付、四谷町々往還相成候道筋者板囲ニ而横町メ切ニ相成申候、尤町内ニ而も、堀端・石垣上戸板ニ而相囲候處、御道筋俄ニ相替り、三田有馬中務太夫様御屋敷江御入込相成候間、通行無之候、伝馬町老丁目天徳寺門前右江、紀州様表御門通り、俄ニ同御屋敷ニ而御小休相成申候、昼九つ半時頃相濟申候

四月二日 天氣 藤七・忠兵衛

一、林信太郎義、丹羽ニ靈岸嶋埋立地扇屋と申会席江罷出候處、先方ニ而不罷出候

四月三日

一、丹羽長一件、本郷御弓町福田正太郎殿屋敷江罷越、其後春日町料理茶屋ニ而一札差出し相濟申候

四月五日

一、今日三井納仕申候

一、松ヶ根屋弥助御番所一件、相手宝泉一不参ニ付、来ル八日出

四月六日

一、定例之通町入用取集メ、勘定相濟申候

一、今日家主鉄五郎殿妻おもんとの義、離縁相成候ニ付、庄吉殿同道ニ而、荷物当人共引取申候

四月七日

一、籠甲屋鉄五郎殿一件、家主儀左衛門殿より、おもんとの義者、迎も永統難相成候間、子共も無之候間、引取吳候様被申聞候間、昨日引取申候

四月八日

一、明十四日御救人別会所江可差出旨、惣町江相達候間、昼夜不抱相記申候

四月九日

一、今日町会所江御救人別帳差出申候
一、今日昼八つ時頃小児出生仕候

四月十日

一、今日東山道総督府より徳川慶喜謀叛之罪状明白之趣有之由、御触書御渡被成候

四月十一日

一、今十一日 勅使橋本大納言様并柳原侍従殿御両卿ニ而、西丸御城御受取相成、今日より者

御当家御家人其外銘々も扶持被下旨被仰出候

四月十二日

一、明十三日七分納二付、当町義者、当月月番二付、取集中候
一、種々相替候御触面、田安中納言様被仰出候

四月十三日

一、通七ヶ町御救一件二付、町会所より呼出し有之、伝忠忠八殿・手前共兩人ニ而同所江罷出候処、人別拾五才以上男子之分、渡世可書入旨被仰渡候間、依之書入仕候間、記置もの也
一、珍平店四之助外五人義、病人御救願仕候処、白米三斗錢六貫百文被下候事

一、庄吉店倉吉外四人、同断白米式斗五升、錢四貫文被下置候事
一、今日四谷御門初メ三拾六御門共、官軍江御引渡相成候二付、官軍

慶応四年四月十日（十六日）

方ニ而御家人・御旗本共逸々名前相調、通行為致候事

四月十四日（辰） 天気 庄吉・庄三郎番

一、人別増減当町番屋ニ而仕候、尤支度之義者、肴屋清次郎殿ニ而致貴申候

一、因州七番隊左振飢太郎組のもの、吏率之由申之、近辺名前之前手先有之候ハ、名前取調可申聞被申候得共、当節手先之もの者、逃去住所相知不申旨相断候処、同人申聞候ニ者、官軍役所江連参り首可相勿旨被申聞候

四月十五日（巳） 秀次郎・兵藏番

一、小児一と七夜、銘々真似少々仕候
一、御救入用割合自身番屋ニ而割付仕候、尤通り七ヶ町并外二仲町共組込候二付、老人二付三厘六毛相懸り申候、惣人数三千四百拾八人ニ割申候

四月十六日（午） 惣七・清吉

一、町会所より七分積金当三月分より四・五ヶ月分と都合三ヶ月金可相納旨被仰渡申候、右者先達而官軍方御役所江相納候夜具之代、今般御達相成候七分積金之内より御下ヶ相成候二付、上納可致旨被仰聞候間、当町通年番二付、番屋ニ而寄合仕候

慶応四年四月十七日(廿日)

四月十七日 清次郎・安右衛門

一、七分積金式ヶ月分相集申候

四月十七日

一、今日霊岸島川島(マ)炭左之通、積送り申候

一、六拾表(マ)老車

此(マ)運ちん四貫三百拾式文

内、八表也

肴屋分

代金(マ)老兩受取

運ちん(マ)

一、八表也

伊豆屋分

代金(マ)老兩ト

運ちん(マ)

一、拾式表也

加々屋分(マ)

代金(マ)老兩式分ト

運ちん(マ)

一、四表也

籠屋分

代金(マ)式分ト

運ちん(マ)

一、式拾八表也

町内分

代金(マ)三兩式分也

運ちん(マ)

一、六拾表也

右之通御座候間、記置もの也

四月十八日 清次郎・珍平

一、今日松ヶ根屋番所江罷出候処、相休相成申候、尤有栖川宮様御城入相濟不申内者都而御番所休同様ニ而、御出勤無之候事

一、南伝馬町ニ而、早々反物調申候

四月十九日 天氣(マ) 丁酉(マ) 喜兵衛・安平

一、人別印形取之申候、相濟申候

一、昨十八日通七ヶ町七分、式ヶ月分相揃候ニ付、高嶋玄関江罷出候処、谷島氏同席ニ罷在、高嶋氏江相渡申候、式ヶ月分ニ而左之通り

一、金廿三兩三分三朱ト 四谷伝馬町老丁目

一、銀三匁老分七厘 外□町

一、此錢七百八十九文

一、金五兩ト

一、老分式厘六毛 四谷忍町

一、此分三十文 外老ヶ町

但兩ニ拾五貫文相場ニ而、高嶋江勘定致し相渡申候間、為後年記置もの也

四月廿日 天氣(マ) 戊戌(マ) 五郎兵衛・五兵衛

一、人別増減勘定番屋ニ而致申候、尤写物有之、伝式・伊賀年番、外
ニ塩式被罷越、左之通り

一、白米式升五合代 七匁五分

一、みそ代 四百文

一、四十八文 香の物代

一、六百文 いろ／＼小買物代

一、金壹分 酒壹升代

メ

一、同夜九つ時頃麴町拾三丁目福寿院横町角髪結床隣り、仏師屋式軒
之内に火致し、伝式御飯屋横町迄焼失、向側船橋屋并ニ大塚屋
両家土蔵ニ而焼留る、山形屋と申かんさし(替)おろしや、伊勢茂助と
申古着屋式軒焼失、拾三丁目者市場屋と申鳥屋ニ而焼留る、新堀
江町片側焼る、伊賀町原加々屋(マ)ニ而焼留る、御簞笥町ハ勘助店ニ而
焼留る、其外御組屋敷焼失仕候、尤同夜七つ半時頃鎮火相成申候
一、玄関ニ而御出役有之、火元調有之候事

四月廿一日 曇 大風 己亥 庄次郎・甚右衛門

一、庄三郎店孫兵衛外三人、人別送り、武州久良岐郡横浜元町壹丁目
所左衛門店□兵衛方江同居致し候間、同所江人別送り差送具候様
被申聞候ニ付、人別送押切取之遣し申候
一、同夜九つ半時、青山久保町に火出、弁当焚出し巻度、漸七つ時頃
鎮火相成、引取来申候

慶応四年四月二十日〜二十四日

四月廿二日 降 大風 庚子 安兵衛・鉄五郎

行事喜兵衛去ル十九日ヨ来ル廿七日迄

一、町内堀端ニ非人病死人有之、依之無據上総屋江相頼、金壹両式分
遣し、喜兵衛殿方ニ而取片付貰申候、尤代金之義者、徳兵衛方立
替遣申候

四月廿三日 天氣 辛丑 藤七・忠兵衛

一、何れも罷出不申、稲毛五反田村鉄屋栄次郎殿方ニ三月十六日預ケ
置候籠老つ、裏掃除屋江請取ニ遣ス

一、同暮六つ時頃伝馬町式丁目廻状至ニ付、罷出候処
御勅使柳原侍從殿、井伊掃部頭様御屋敷江入込候ニ付、町々行
事可罷出旨被仰渡、依之一同相談之上、差出可申旨被申聞候

四月廿四日 天氣 壬寅 庄吉・庄三郎

一、今日相談之上(籠カ)竈引ニ相成候処、加々屋落籠(籠カ)ニ相成申候、井伊家ニ
者御勅使罷越不申候

一、尾州御屋形ニ屯罷在候土州・因州両藩不残、奥州筋江出立仕候
一、市谷御門勤番之土州藩不残甲冑ニ而直様打出し可申手筈之様子ニ
御座候間、右私見分仕候
一、奥州口海道ニ而、戦争有之、官軍方敗軍之由ニ而、手負其外首級
餘程千住ヨ江戸表江入込候様子ニ御座候

慶応四年四月二十四日〜二十八日

一、尾州御屋形江先達而相納候夜着、今日御用濟ニ而御渡相成候間、

受取可罷出旨被申聞御達し有之罷出候處、尾州御屋形御玄関前ニ而夜具差出有之候處、先達而相納候處、高百六拾之内蒲団數八十八枚有之

左之、代地 六枚、伝巻 九枚、麴巻 七枚、伝式 七枚、

伝三 拾式枚、塩巻 七枚、塩式 七枚、塩三 五枚、

忍町 十四枚、伊賀 六枚、御簞笥 五枚、新堀 三枚

ノ蒲団 八拾八枚

外ニ夜具式つ

右之通御渡相成、残之分明日受取可罷出旨、官軍方賄方諏訪様・内藤様御両家被申聞候

四月廿五日 曇 癸卯 庄三郎・秀次郎

一、今日く組定例寄合、下勘定伝馬町式丁目より廻状持參候間、丸庄氏罷越候

一、今日尾州御屋敷江罷出候處、夜具之義者、御玄関前ニ差出有之候得共、土州家今以沙汰無之候ニ付、今日者難相渡旨被申聞候

四月廿六日 降 甲辰 庄三郎 兵藏・清次郎

一、御勅使柳原從從殿、井伊掃部頭様御屋敷内江御入込相成候ニ付、同所御沙汰ニ付、一昨日鬮之割合通り④加々屋御覺太郎殿被罷出、尤夕刻を替り合候積ニて

一、④青梅屋庄次郎殿同屋敷江罷越可申積

一、同日尾州様御屋形ノ夜具可相渡間、受取可罷出旨被申渡候間、罷出候處、不残不相渡候間、三拾巻つ蒲団受取、相帰申候

一、今晚町入用下勘定仕候、尤明廿七日夜具受取ニ可罷出旨、下勘定仕候

四月廿七日 降 乙巳 惣七・清吉

一、④今日 勅使屋敷勤番甚右衛門殿罷越申候 昨夜義者、庄次郎殿罷越、翌日相帰申候

一、尾州屋敷ノ官軍方夜具之義、御用濟之上御渡ニ相成候處、惣町之内伝馬町式丁目五つ蒲団巻つ不足、塩町式丁目四つ不足、右四布式つ、三布巻つ差返ス、伝馬町三丁目三つ不足、右江四布巻つ、三布巻つ相返ス、其町之外之義も不足有之町々江者、數計差返し候得共、新巻杯之義者真殊ニ氣之毒之次第ニ存候

四月廿八日 戊午 半降 清次郎・安右衛門

一、④勅使小使安兵衛殿罷出申候、尤昼夜詰切 一、御救願入用取集ニ罷越申候處、伝三・塩三・新巻而受取申候

一、明後朔日忍町外七ヶ町義者、御救米被下召連可罷出旨、御達書到來ニ付、町々江配府差出申候、町内其外義者、来ル閏四月十一日御渡し可相成御達書有之候

四月廿九日^(丁未) 天氣 珍平・嘉七

一、明後二日御救米被下候ニ付、今日相談上^(ママ)、御救米頂戴ニ罷出候も
の五百九拾式人江強飯可差遣答ニ候、尤竈數百五拾九軒、左之通
り

一、金貳兩也 富山

一、金貳分也 田中屋

一、金壹分貳朱也 相木屋

一、金貳朱也 三甚

外ニたくわん

一、金壹分也 富田氏

一、金壹分也 永田屋

一、金貳分 丹羽長

一、^(ママ) 加々屋

右之通り取極メ、夫々出銀相願可仕候筈

一、^(成)今日御勅使御宿陣下小使、一昼夜持切ニ可仕筈、鉄五郎殿罷出
申候

閏四月朔日^(成) 天氣 珍平・嘉七

一、勅使宿陣小使、山田屋氏今日罷出申候、其外無別条無之候^(ママ)

一、強飯之義、加々屋ニ而相ふかし候積ニ御座候処、伊賀町みせ江貸^(成)

遣候処、同所ニ而蒸籠焼失仕候間、差支候旨申之候間、依市谷七^(ママ)

軒町菊屋へ相頼申候、尤煮染之義者、肴屋ニ而仕出有之候

閏四月二日^(辛酉) 天氣 喜兵衛・儀左衛門

一、今日六つ半時、町会所江呼出し有之、御救米被下置候、尤町内義
者、四つ半時頃相仕舞申候

町会所茶屋森田屋江茶代として

一、金三分 町内毎ニ遣申候

一、金壹分 七ヶ町分立替候而

高島氏江渡ス

一、金貳朱也 同断

右之通ニ御座候、町内之義者、通年番之義ニ付立替、高島氏其外

江差出申候

一、御救相仕舞、浅草觀世音様并其外江参詣、浅草広小路隅屋ニ而支
度仕候、左之通り

一、金貳兩壹分貳朱ト 隅屋弘

一、金壹分三朱ト 船ちん

一、金壹分三朱ト

一、金壹分三朱ト

一、金貳兩三分壹朱ト

一、金貳兩三分壹朱ト

一、金貳兩三分壹朱ト

慶応四年四月二十九日〜閏四月二日

慶応四年閏四月二日〜七日

金巻分式朱也

つり 百文つゝ

右之通割合取集申候

儀左衛門殿・五郎兵衛殿・庄次郎殿 甚右衛門殿・珍平殿・秀次郎殿・庄三郎殿・惣七殿

右同道ニ而暮六つ半時頃帰宅仕候

一、今日 勅使宿陣小使忠兵衛殿

閏四月三日^(庚)壬戌 天氣 五郎兵衛・五兵衛

一、勅使宿陣庄吉殿代り兵藏殿罷越申候

下総国船^(橋)はし、八幡村辺ニ而脱走人と戦争有之、官軍方敗軍之様子ニ而、井上様參謀方加藤監物様方江、凡六度程早追ニ而注進有之、

明四日柳原侍從殿御出立相成候趣ニ而、官軍引連千住宿迄多人數

同道ニ而出張相成候趣ニ而、供触有之候

一、当町義者、柳原侍從殿參謀方ニ而、井上河内守様御家来加藤監物

様詰所ニ而、^(正徳)番之部屋ニ而日々相動来申候

行事今日^(正徳)家主儀左衛門殿、来ル八日迄相勤可被申候事

閏四月四日^(辛亥)辛亥 庄次郎・甚右衛門

一、御勅使宿陣小使庄三郎殿代り清助罷出申候

柳原侍從殿御出立ニ付、町内持場相替り、藝州様御屋敷^(マ)可罷出

旨被仰聞、同所江罷出申候、右ヶ所之義者、御用金取建所ニ御座

候

候

閏四月五日^(壬子)壬子 天氣 安兵衛・鉄五郎

一、御勅使宿陣小使 秀次郎殿罷出申候

一、別条無之候、今日水天宮様御屋敷御門^(マ)切ニ而、參詣不相成候事

一、鉄五郎店兼吉義、配府^(マ)ニ付、玄関^(マ)江罷出候処、同人方ニ仙藏と申

もの同居為致罷在候ニ付、素麴^(マ)町拾式丁目下野屋助左衛門店^(マ)罷

在、其節不都合之義有之、今般御救願相洩候ニ付、同人助左衛門

方江罷越、差纏出来ニ付、同人方^(マ)懸合文通有之候ニ付、玄関江

被招呼候義ニ御座候

閏四月六日^(癸丑)癸丑 天氣 藤七・忠兵衛

一、御勅使下宿陣小使 兵藏代清助差遣申候

一、町入用本勘定仕候

一、今日南御番所御年番所^(マ)四つ時御呼出し、清次郎店文六、家主清

次郎・安右衛門・珍平・安平・五郎兵衛・家主儀左衛門・五兵衛

メ八人御差紙ニ御座候

一、金五兩三分ト六貫文 三井受取

一、千葉氏一件、来ル十日出帰り支度、山下町寿し倉ニ而支度仕候

閏四月七日^(甲寅)甲寅 天氣 庄三郎・秀二郎

一、御勅使宿陣小使 惣七殿罷越申候、尤去ル四日^(マ)藝州様御屋敷江

罷出候

一、御簞笥町半次郎殿・伝三利兵衛殿同道ニ而罷越候間、官軍方江相納候夜具受取罷出候入用、□ノ町割、老ケ町金式朱ト四百六十四文ツゝ割合、利兵衛殿同道ニ而取集メ罷出申候

一、今昼八つ時頃陸軍隊と申侍兩人ニ而罷越、四谷江式ケ所屯所出来ニ付、焚出し可致旨被申聞、依之行事儀左衛門殿く組月番江右始末申出候処、同夜五つ時頃月番伝三ノ廻状到来、尤明八日五つ時刻刻無遅滞可罷出旨、持廻り有之候、依之記置もの也

閏四月八日乙卯 天氣 兵藏・惣七

一、先鋒惣督宿陣小遣 清吉罷出申候

一、石野昇・太田渡り・中原幾太郎右三人罷越、四谷中江屯所式ケ所程出来不申旨被申聞候

閏四月九日丙辰 大風雨 清次郎・安右衛門

一、先鋒惣督宿陣小遣 清次郎

一、松ケ根屋一件、罷出候処、相手宝泉一義、不参度々有之候得共、今日も刻限遅刻ニ付、明十日出

一、陸軍方石野昇殿外式人罷越、塩式笹寺江貸座敷借受候ニ付、冥加として老人ニ付、日々老文宛差出吳候様被申聞候間、く組町々相談之上、役頭へ申出候上ニ而、否哉可申出旨及挨拶、伝馬町三丁目月行事半七殿・半兵衛殿兩人被罷出候間、同道ニ而先鋒惣督宿

慶応四年閏四月七日〜十一日

陣江罷出、高嶋氏江面会之上、否哉及挨拶可申旨相帰、石野昇殿外式人江半七殿面会之上、明十日高島氏江談判仕候上ニ而前書三人義者引取申候

一、暮六つ時頃、石野昇殿外式人名前ニ而、文通使方被申越候処、千駄谷仙寿院ノ相届ケ物有之候ハ、此もの江可遣旨使有之候

閏四月十日丁巳 天氣 清次郎・清吉

一、先鋒総督宿陣安右衛門罷出申候

一、松ケ根屋弥助一件、今日対談書差上申候

御願高

一、金八拾老兩三分銀九匁

内金三拾兩也

金五拾兩也

当金一時可受取筈

新規月賦證文ニ相改、来年年十月限皆済可仕筈

右之通対談書差出申候

殘金老兩三分銀九匁

閏四月十一日戊午 天氣 安右衛門・珍平

一、先鋒総督宿陣小使 珍平

一、金老兩式朱ト九百八十老文

差引メ伝式・新老分不足

御救返礼一件
昨日ノ行事五郎兵衛十四日迄

慶応四年閏四月十一日〜十五日

一、今日朝四つ時頃千駄ヶ谷仙寿院の金貳百疋持参仕候二付、同寺役僧の自筆ニ而寺号为相印預り置申候

一、高島氏罷越、先達而尾州様宿陣相成候節、相納候蒲団代金・損料老枚三付銀八分つゝ積立差出申候、凡百六拾六之内、不足之分十六有之候間、右ヲ直段老枚金老兩老分宛ニ而書上申候、且三下之入用として老ヶ町金老分ト五匁つゝ、拾老ヶ町ニ相積差出申候

一、陸軍之由相唱候石野昇・中原幾太郎・太田渡右三人罷越、高島氏江及談判、高島氏義者承り候而已ニ而相存不申趣ニ取極、陸軍方之義者、町人共被相頼候積ニ而、市中取締相心得候趣、若奉行所の御沙汰有之候ハ、名主方江者迷惑相懸申間敷旨申談候、依之老ヶ町五日宛、四ヶ町宛打合焚出可仕旨示談仕候、依之明後十三日巡邏可仕旨、打合申候、尤前書之通焚出し之義者、く組月番伝馬町三丁目番屋ニ而取極申候、尤人数廿老人有之候間、上下中と三ヶ所江割合、組合町内割合之義者、伝三の申出候積、同町ニ而く組行事中立会ニ而取極申候、出銀之義者、先達而拾三丁目寿屯所之御差出候振合可仕筈

閏四月十二日 天氣 己未 嘉七・安平

一、今日宿陣小使 嘉七
一、当日義者、御官軍江相納候蒲団受取罷出候入用惣町受取申候、其後忍原末広席江罷越申候

閏四月十三日 天氣 庚申 喜兵衛・儀左衛門

一、何れも罷出候処、名主孫右衛門方江四谷仲町屋敷之由申之歩兵頭小野田東市屋敷へ、名主ニ可罷出旨被申聞候処、同人義者先鋒宿陣詰番之義ニ付、名代ニ私罷出候処、右

小野田東市様被申聞候者、今般市中取締被仰付候ニ付、内藤新宿の巡邏罷出候、依之同所ニ而賄等出来仕候間、四谷町々義も最奇之義ニ付、巡邏可仕候、尤町々取締相付候ハ、別段取締無之候ハ、巡邏致可遣、無腹藏申聞候様被仰聞候得共、孫右衛門義者御用中ニ付、御答等難相成、尤巡邏相成候義者、同御屋敷の御奉行所江御達濟之上、官軍江も打合候上ニ而巡邏可致、御奉行ニ而御断相成候ハ、別段沙汰不及旨被仰聞候、依之御答ニ者巡邏御取極相成候ハ、屯所□成人數、詰所出来可申旨被仰聞、依之前日御沙汰被下候ハ、差支無之様可仕旨被答申置候、依之記置もの也

一、宿陣小使 喜兵衛殿罷出申候

閏四月十四日 辛酉 天氣 五兵衛・庄二郎

一、宿陣小使 市右衛門殿
一、今日義者何れも罷出申候、尤大葡豆四升相木屋ニ而買受、代金老分也相払置申候間、受取参り、番屋ニ而相煮申候

閏四月十五日 壬戌 曇 甚右衛門・安兵衛

今日より行事五兵衛十八日迄

一、宿陣小遣 儀左衛門殿相勤候

一、小児宮参之真似致し、赤強自身番屋ニ而相ふかし、頂戴もの有之候家数上下中と高下相付、三軒拾程相賦申候

閏四月十六日癸亥 天氣 鉄五郎・藤七

一、甚右衛門店利兵衛義大中幸吉・河合広馬一件、南御番所江呼出し、右一件ニ而惣人数引合之もの六拾七人罷出落着相成申候、盜賊兩人義者、吟味中牢死仕、今日一件落着仕候

一、右落着相濟、山下町寿し倉ニ而支度仕候処、拾三人ニ而、当人尅人前金尅分式朱ト尅又つゝ取納申候、尤高金式両式分三朱ト四百文、当人義者伝式岩次郎店龜吉、寛次郎店松藏、半助店□太郎、伝三五人組持店米吉、塩式吉次郎店萬吉、塩尅甚右衛門店利兵衛、御簞笥町龜吉店長吉、右七人ニ而出銀仕候、尤立替之義者能登屋長吉殿立替ニ付、同人方江返濟仕候

四月十七日甲子 天氣 忠兵衛・庄吉番

一、御勅使宿陣小使 加々屋代清助遣申候

一、御勅守居支配之由申之、矢内豊太郎・近藤金之丞殿、右兩人罷越申聞候者、只今名主孫右衛門方江罷越候処、外御用筋ニ而他行仕候趣、同所手代忠兵衛申聞、御用筋之義者当支配町々之義ニ候ハ、通七ヶ町塩町老丁目江可罷出旨被申聞候趣申之、矢内豊太郎

慶応四年閏四月十五日〜二十日

殿被申聞候者、今般市中御取締被仰付候得者、甚差支候義有之間、

四谷町々物持衆を金子借受度趣被申聞、尤隊長 上総介殿義去ル十三日甲州辺江脱走人を取鎮罷越候間、御帰次第利銀等ニ而差加、返濟可仕旨被申聞候得共、四谷町々之義ニ候ハ、当町ニ而者取

計難相成、く組月番伝三番屋江御越、御談判被下候様相断、且通七ヶ町ニ候ハ、当町より町々行事呼寄判断之否哉可申上、且町内之義ニ候ハ、当町家主相談之上ニ而否哉可申上旨申断候得者、

伝馬町三丁目番屋江罷出可申旨申置、帰申候

一、十七日夜本郷春木町より出火、加州様御屋敷出火、弁当焚出し尅度

閏月十八日乙丑 天氣 庄三郎・秀次郎

一、會計所詰番 庄次郎

十六日町内捨物有之、御訴仕候処、三日晒被仰付候間、依之明十九日北御番所江晒濟御訴可仕筈

閏月十九日丙寅 天氣 兵藏・惣七殿

一、會計所詰番 甚右衛門殿

一、右同人代清助義、罷越候処、如何行違相成候哉、三軒家詰所より罷越候ニ付、今朝同所へ罷越、交代致罷帰候趣、相断返し申候

閏月廿日丁卯 天氣 清吉・清二郎殿

慶応四年閏四月二十日〜二十五日

一、会計所詰番 安兵衛殿

一、去ル十七日会計所ニ而名主方不都合之義有之候間、町役人義者障子内御用向等相働候ニ付、小遣人之義者欠走り之義ニ付、外廻り相働可申旨、談示^(ママ)方行届候ニ付、町役人義者、老人ニ而者相働兼候間、依坂町江懸合、同所江相談之上兩人ハ老人ツヽ罷出可申管懸合行届申候

閏月廿一日戊辰 天氣 安右衛門・庄三郎

一、会計所詰番 鉄五郎

一、喜兵衛店信次郎方同居吉五郎、鉄五郎店源太郎方同居作次郎、右源太郎前書三人義、市谷長延寺谷町周栄ハ相懸候出入、今晚七ツ時召連可罷出旨、御差紙ニ付、罷出候処、願人不参ニ付、明廿二日可罷出旨被仰渡候

一、会計所詰番之義、今日坂町幸三郎殿と兩人ニ而罷出候処、詰合役頭方被申聞候者、是迄老人ニ而相働候義ニ付、老人ニ而骨折、兩町隔日ニ可相働旨被申聞候間、当町義者立帰り、坂町幸三郎殿相働申候

閏四月廿二日己巳 降 珍平・嘉七

一、会計所詰番 鉄五郎殿

一、鉄五郎店源太郎・作次郎、喜兵衛店吉五郎右三人ニ共、南御番所江罷出、勘定書差上、来五月二日出被 仰付候

一、上野竹矢来外構メリ之義ニ付、御談判有之、小間ニ付銀壹匁二分

ツヽ差出可申旨御沙汰有之、依之惣町七ヶ町寄合仕、明廿三日中取集可差出旨相談行届申候

閏月廿三日庚午 天氣 珍平・嘉七

一、会計所今日坂町ハ罷出申候、昨廿七日之義者、柳原從侍殿浜御庭江着船ニ而、夕七ツ時外桜田井伊掃部頭様御屋敷江御着相成候間、依之詰合行事不足ニ付、明町之義者可罷出旨廻状到来有之候得共、当町之義者会計所場所ニ付、罷出不申候間、記置もの也

閏四月廿四日辛未 天氣 喜兵衛・清次郎

行事今日ハ甚右衛門、来廿八日迄

一、会計所詰番、今日山田屋藤七殿罷出可申候、拾老丁目白銀師半蔵殿病死ニ而、今明ヶ六ツ時頃葬式ニ付、七軒町江相頼、同町ハ五郎兵衛殿罷出申候

一、上野外構竹矢来入用割合、昨廿三日取集メ高金拾八兩三朱ト銀七分五厘、三軒家詰所江持参、牛込薬店名主中村紀平殿、元赤坂町名主秋元八郎右衛門、寺島茂左衛門殿其外立会候場所ニ而、金子差出申候、尤帰途中高島氏義者廻町九丁目ニ面談、前書方々江相渡候趣申上置候、何れニも金子差置候得者、宜敷旨被申聞候

閏月廿五日壬申 天氣 安平・儀左衛門

一、会計所詰番 今日之義者坂町

一、昨廿四日仲町人別帳相認め、同人江相渡申候、尤家主惣兵衛殿ニ

御座候

一、今日者千葉氏宅江罷越休息仕候

一、閏四月廿六日癸酉 天気 五郎兵衛・庄二郎^(ママ)

一、会計所詰番 七軒町市兵衛殿助合罷出呉候間、記置もの也

一、同月廿七日甲戌 天気 安兵衛・鉄五郎

一、会計所詰番 坂町

一、下勘定相濟、何れ江も罷出候間、番屋ニ而押切帳不殘相認置申候

一、閏四月廿八日乙亥 雨降 藤七・忠兵衛

一、会計所詰番 七軒町茂八殿罷越申候

一、山田屋・青梅屋氏同道ニ而、御藏前不動様より浅草觀世音様江参詣罷越申候

明廿九日、五月四日迄行事みの屋安兵衛

一、閏月廿九日丙子 雨降 庄吉・庄三郎・秀次郎^(ママ)

一、会計所詰番 坂町罷越申候

一、伝馬町老丁目大木屋六兵衛殿罷越申聞候ニ者、市中不穩ニ而四谷

慶応四年閏四月二十五日、五月朔日

取締方々内藤新宿辺ニ屯罷在、四谷町々巡邏有之候跡見合、侍躰之もの押借致し候間、伝三・伝老・拾老右三ヶ町、願書ヲ以、歩兵頭小野田藤市様江相願候処、拾老・伝三番屋ニ而巡邏之節、役々之方々代り合候様申出候処、追而御沙汰之旨被仰出候

一、五月朔日丁丑 雨降 兵藏・惣七

一、昨廿九日御触書之写

覚

一、徳川亀之助殿今廿九日西丸江被成 御登宮候様 大總督宮、御

沙汰ニ付、一橋大納言殿御名代として被成 御越候処、亀之助

殿御事御当家御相統之義、別紙之通被 仰渡候間、早々可被相触候

閏四月

右之通御書付出候間、町中不洩様早々可相触候

辰五月朔日

町年寄 役 所

慶喜伏罪之上者、徳川家名相統之義、祖宗以来之功宮を被 思

召、格別之以

叡慮、田安亀之助江被仰出候事

但城地・禄高等之義者、追而被 仰出候事

右之通御書付出候間、町中不洩様入念早々可相触候

辰五月朔日

町年寄 役 所

慶応四年五月朔日〜四日

一、会計所詰番 七軒町五郎兵衛

一、松ヶ根屋弥助一件、対談当日ニ付、罷出候処、宝泉一義、当金として金式朱持参仕候間、右之趣申上候処、利解有之、金子調達出来不申旨申立候ニ付、同人腰繩ニ相成、溜引合被仰付、懸合之上、来ル十日迄ニ金拾五両調達、可相渡旨相歎候ニ付、右之趣申上、来ル十日迄日延相願、宝泉一義御免相願申候

一、今朝日朝五つ時、御供揃ニ而、勅使柳原侍從殿義者、甲府表江出張相成申候

五月二日戊寅 雨降 清吉・清次郎

一、会計所詰番 坂町

一、市谷長延寺谷町周栄一件、一同罷出、銘々封金ニ而相納候得共、少金故利解有之、来ル六日出

一、今日早朝大木屋市兵衛殿罷越、屯所之義拾壹丁目・伝三番屋式ヶ所江巡邏之節、交代相願候処、同所ニ而者、詰合不都合、殊ニ大通筋ニ而者不宜義も有之候間、式ヶ所ヲ老ヶ所ニ相纏メ、入用不相懸様仕り不然而被申聞、千葉氏座敷借受、同所屯所ニ致し、惣人数四拾人程相詰候間、遠方之もの者弁当間ニ合兼不申候間、日々拾人つゝ焚出し致具候様被申聞候間、く組月番伝三ニ而寄合之上、諸入用之義者大中小と高下相成候間、大町金三両つゝ、右ニ准し割合仕候、尤拾人焚出し、老人ニ付銀三匁五分つゝニ而相賄可申

筈、示談行届申候、依之町内ニ而寄合之上、出銀割左之通り

一、金壹両也

富山

金式分つゝ

田中屋・加々屋・相木屋三軒者

一、金壹分式朱也

丹羽長

金壹分つゝ

河内屋・富山吉兵衛・三甚

一、金式朱つゝ

富田氏・重元氏・万長

一、金式朱つゝ

かし通り

右之通町内ニ而者金四両つゝ出銀可仕筈、示談行届申候間、依之記置もの也

五月三日己卯 天氣 清次郎・安右衛門

一、会計所詰番 藤七

一、第四聯隊千葉氏江屯所相成候間、諸買物品補理罷在申候

五月四日庚辰 天氣 嘉七・珍平

一、会計詰番 坂町

一、今日〆行事鉄五郎、来ル八日出

一、千葉氏江屯罷在候様取極候処、屯御免相成申候

一、昨夜伝三、三長江劫盜這入、召仕松藏鉄炮ニ而打殺し、南御番所江御訴、御検使相成申候

五月五日辛巳 天氣 喜兵衛・市右衛門

一、會計所詰番 忠兵衛

一、御節句二付、何れも不罷出候

五月六日壬午 天氣 儀左衛門・五郎兵衛

一、會計所詰番 忠兵衛義相詰候間者坂町

一、町入用勘定相濟、三井納ニ罷越申候

一、源太郎・作次郎一件、来ル十日出

五月七日 雨降 (癸未) 甲寅 五兵衛・庄次郎

一、會計所詰番 庄三郎

一、甚右衛門店利兵衛義、北定廻り様引合ニ罷越、金貳分也差出し、

引合相除申候

一、同日義者大嵐ニ而、宮松江見物致し、里見八犬伝見物致し、夕七

つ時頃引取帰申候

当月四日の行事鉄五郎、来八日迄

五月八日 大降 (マ) 甲申 甚右衛門・安兵衛

一、會計所詰番 坂町

一、古金并錢直増有之候間、為後日記置もの也

一文久錢 (マ) 拾六文 寛永真鍮錢 廿四文 同銅小錢 拾貳文と

直増相成候得共、金老兩相場相立不申

五月九日乙酉 (術力) 乙酉 藤七行事今日の十四日迄 忠兵衛・庄吉

一、會計所詰番 庄三郎

一、通年番二付、七ヶ町寄合仕候義者、先鋒総督宿陣彦根屋敷諸入用

多分相成候間、月々銀老匁つゝ小間取集置候ハ、可然旨、名主所

の被仰聞候間、今日寄合之上、町々ニ積置、御沙汰次第年番町ニ

而取集メ、差出し可申旨御沙汰相待可申旨、示談行届候間、町々

ニ而積置可申旨、相談行届候間、依之為後日記置もの也

一、青銅兩錢共、錢相場治定不致、諸商人迷惑仕、渡世相休罷在候、

依之市中兩替屋の錢相場之義ニ付、寄合之上ニ而御番所江罷出申

候

五月十日 雨降 (マ) 丙戌 庄三郎・秀二郎 (マ)

一、今日會計所詰番 坂町

一、松ヶ根屋・宝泉一一件罷出候処、不参ニ付、物録役所江申通候間、

明十一日出、日延相願申候

藤七殿昨九日の行事、来十四日迄

一、一昨九日夜大風雨ニ而、拾老丁目自身番屋裏大ニ崩レ、御堀中江

流出、植木其外共御堀中程ニ有之候

一、外桜田井伊掃部頭様屋敷柳之井戸の南東江間数拾間程相隔候場所、

御長屋石垣際の相崩レ、往還江押し候ニ付、往還相止候間、下

水相溢レ、流水辻番所際、柳之井戸江下り候場所の砥き故、同所江

慶応四年五月十日～十五日

水落込候ニ付、往還下土手相崩レ、辻番所下江崩れ込候ニ付、番所者同所相倒れ、微塵ニ相崩申候、^(まこと)真殊ニ珍敷事故、見聞之假記置候間、後日咄しの種而已云々

一、聞書記置、先達而中ぐ、大総督宮様方江、上野御門主様御登城被成候様、使者上野度々有之候得共、御登 営無之、諸用有之候ハ、上野江登營勅使可罷出旨御答有之、使者之もの者獄門ニ相懸ケ、三橋際有之由風聞、真偽相分不申候処、今日上野江 勅使御入之様子、官軍之義者、縦令 勅使守衛ニ候共、三橋中江者忝人たり共難相成、勅使忝人相通可申、若又官軍方返答次第、広小路ニ而上野警衛之彰義隊を打払可申様子ニ而、銘々甲冑ニ而御固メ罷在、下谷近辺之もの者、日々夜々共心配可罷在旨、上野元黒門町名主岡部助三郎殿代半七殿被申聞候間、聴聞書記置もの也

五月十一日丁亥 雨降 庄三郎・兵藏

一、会計所詰番 丸屋庄吉殿代清助罷越

一、松ヶ根屋一件、御番所江罷出候処、宝泉一義、今日何分金子出来兼持参不仕候間、利解相願候処、当節柄之義、殊ニ盲人之義故、

今一応日延致し遣し候様被申聞候間、来十六日出之日延

一、両替屋一件、今日御番所江罷出候処、大総督會計所松平^(忠誠)下総守家敷江罷出旨被仰付、同所江罷出候処、天然相場ニ取極可申旨被申聞、依之両替屋一同惣寄合相成候上、相場取極申候

五月十二日戊子 雨降 惣七・清吉

一、会計所詰番 坂町

一、今日両替十七貫弍百文、^(マ)忝弍百八十三文弍分

一、金弍朱也^(マ) 弍貫四百四十五文^(八)

一、今日袋弍番町市中取締役所江名主可罷出旨被仰渡候ニ付、罷出候処、村上俊五郎義、田安殿を取締被仰付候間、向後諸隊号相唱又者押借等有之候ハ、早速同所江可罷出旨被仰渡、尤異変有之候節者、町役人可申出旨被仰聞候、依之右始末町々江申渡候

五月十三日己丑 雨降 清次郎・安右衛門

一、会計所詰番 秀次郎殿代り兵藏殿罷出候処、同所勤番日々相替候

而者、甚難渋之趣被申聞、依之今日日々不相替候様被申聞候、

名主方江も申談有之、今日者秀次郎殿名代相帰申候

五月十四日庚寅 雨降 清次郎・珍平

一、今日会計所詰番 坂町

一、御門ノ之義、四谷御門を始め、メ切相成、小門并ニ潜門通行相

成、不弁利ニ而町人一同甚難渋仕候、御門之義者、上野戦争一件

二付、往還潜通用^(マ)

五月十五日辛卯 雨降 珍平・嘉七

行事今日も清吉、廿日迄

一、今朝六つ時頃、上野広小路三橋際ニ而、官軍方と彰義隊と打合有之、戦争ニ相成、所々出火ニ而大騒動、たとへ申へきニあらず

一、東叡山山門其外本坊迄不残官軍方人数ニ而、大炮ニ而焼討相成申候、彰義隊之義者敗軍ニ而、御門主様御洞裏共焼失仕候間、何れ江被為落候哉、御行衛相知不申候

一、東叡山広小路の者薩州様・因州様、池之端穴稲荷之口の細川様御人数、谷中口御門の長州様御人数、下谷車坂の者黒田様・鍋島様、諸方の御大名様方拾七頭と申事之風聞ニ付、記置もの也

一、車坂口の屈競之人数会津の只今当着之趣、願書ヲ以申出候ニ付、相違も有之間敷と加勢為致候処、俄ニ右人数之義者官軍方廻し人ニ而、是則細川家之人数ニ而、裏切被致、依之一同彰義隊気遅れ致、裏切人数凡式百人程之様子ニ承知申候

一、同日御勅使先鋒総督橋本少将殿御出馬有之、上野山内焼亡跡御見分有之、御引取ニ相成申候、御警衛之義者、細川家之御人数也、御山内出火之義者、翌十六日朝五つ時頃に漸鎮火相成申候、尤出火相始り候刻限之義者十五日五つ時頃の相始申候

一、輪王寺御宮様御洞裏炎上ニ付、何れ江御立退に相成候哉、市中之者共へ一向相知不申候

一、同夜八つ時頃、御堀端往還ニ而因州様御人数、麴町拾丁目成瀬様御屋敷御宿陣ニ相成、同所の四谷御門外御巡邏之節、侍躰之男兩人通行、不審ニ付可取押処、手向致候ニ付、切殺候間、死骸之義者、町法之通取片付可申旨被仰付、其砌拵付刀老腰、但銘藤原朝

臣包守と有之、其外品々有之、古式朱式つ、大黒銀玉老つ、其外之義相認不申町役江御預ヶ相成候間、籠屋清吉殿当行事ニて万事取計可申候事

五月十六日壬辰 雨降 嘉七・喜兵衛

一、会計方詰番 坂町

一、変死一件ニ付、高島氏義者、先鋒総督会計所江詰合相成居候処、前始末ニ付、同所江罷出、会計所御訴罷出候積ニ而、上総屋喜兵衛殿、永田屋珍平殿・青梅屋庄次郎殿・籠屋清吉殿・鼈甲屋鉄五郎殿其外ニ而、同所へ罷出候処、死骸取片付済之上、訴可申出旨、高島氏被申聞候間、一同立戻り、書面相認め、雜物持参ニ而罷出候処、日比谷御門ニ而通行被差留、山下御門同断、依之御訴之義者無餘義相延申候

一、死骸取片付之義ニ付、吉五郎江金四両式分ニ而寺ニ葬料并人足賃錢共懸合済之上、同人方ニ而夕七つ時取片付仕候

前書之通ニ而事済申候、尤寺之義者天台宗ニ而四谷曙坂下地福院江町内行事忠兵衛・五人組庄吉名前ニ而一札差出候間、為後年記置もの也、但人足老人式分式朱宛割ニ遣申候

一、右一件ニ付、急場入用安右衛門殿江相頼、金七両也富山ニ而前借致し仕払、尤返済之義者、別集可仕管故立替呉候義ニ御座候

五月十七日癸巳 雨降 喜兵衛・市右衛門

慶応四年五月十七日(二十二日)

一、会計所詰番 坂町

一、変死一件御訴ニ今日山田屋氏・永田屋氏・上総屋氏・徳兵衛、物持人足甚蔵召連、赤坂通り虎御門外数寄屋橋御門江相廻り、御訴之次第相願、漸南御番所へ相通、御訴済候而、南隠密方渡辺喜兵衛様、北同山本啓助様御届ヶ仕候上ニ而、青物町讀岐屋ニテ支度仕、尤金貳分貳朱ト四百文相払申候

一、帰度仕候上ニ而、諸入用割合仕候、尤寄合之上ニ而

一、金九兩貳分三朱ト五分

右ヲ惣小間百四拾三間貳分五厘ニ割、老小間ニ付、銀四匁壹分ツ、相成申候間、明十八日取集可申筈ニ而、割賦相賦申候間、

記置もの也

五月十八日甲午 雨降 儀左衛門・五郎兵衛

一、会計所詰番 坂町

一、変死人一件、諸入用相集候処、不足場所有之候得共、富山取者借用分返済仕候、尤旦那留主^(マ)ニ而、證文見分兼候間、取調返済可申旨被申聞候間、判取帳江急場立替皆済之旨、受取取置候間、依之記置もの也

五月十九日乙未 雨降 五兵衛・庄次郎

一、会計所詰番 坂町

一、去ル十六日、日本橋際御高札御懸替相成候旨、町年寄役所より御

配符相廻り候得共、写書之義者、御触帳江認置候間、此所江者相記不申候

五月廿日丙申 天氣 甚右衛門・安兵衛

一、会計所詰番 坂町

一、家根屋勘次郎殿江罷越、斎藤様・須田様并筒井様御屋敷江歎願書三通差出候ニ付、相認メ遣し申候、尤同人宅ニ而仕候

五月廿一日丁酉 曇 鉄五郎・藤七

一、会計所詰番 坂町

一、今日ヨ行事丸屋庄吉殿、来廿八日迄

一、番之義如何相狂候哉、今日忠兵衛殿ニ相成可申候、行事明ニ付、庄三郎殿相勤可申候、依之記置もの也、明日義者秀次郎・兵蔵殿

二御座候

一、青梅海道柳沢辺・田なし^(無)辺脱走人有之と相見得候而、官軍人数出張、今日相成申候、尤薩州様・藝州様・有馬様三頭之御人数、合而三百人程之様子ニ御座候、今朝五つ時之事ニ御座候

五月廿二日戊戌 天氣 *兵蔵* 庄三郎・秀次郎

一、彰義隊武州川越松平周防守様御城江懸合詰之上、同御城之義者戦争有之、彰義隊之方江被奪戦争之様子ニ候間、見聞之低記置もの也

一、今日會計所詰番、寄合之上、昼夜老人つゝ十日之間相詰可申旨被申渡候ニ付、相談之上来廿五日より鉄五郎店亀吉と可申者、昼夜五匁つゝ之割ニ而相詰可申旨、示談行届申候

五月廿三日己亥 天氣 兵藏・惣七・*清吉*

一、武州多摩郡飯野邊戰爭有之候風聞有之候、同日義箱根ヶ崎辺ニ而騒動有之様子ニ而大砲之音市中江相響申候

五月廿四日庚子 天氣 清吉・清次郎・*安右衛門*

一、今日會計所詰番 坂町

一、天王別当所江世話人罷出申候、今日神楽相勤申候、神楽料持寄之義者、老ヶ町金貳分つゝ持参可仕管取極申候間、依之記置もの也

五月廿五日辛丑 清次郎・安右衛門・*珍平*

一、會計所詰番之義者、今日十日之間、町内が罷出申候、尤行事代鉄五郎店亀吉と申もの差遣申候

一、今日青梅辺出張相成申候官軍方、因州様・藝州様・有馬様御人数相帰申候、尤青梅辺、飯野辺平均と者不相成趣ニ御座候

五月廿六日壬寅 天氣 嘉七・喜兵衛

一、會計所詰番 町内

一、閏四月廿六日が閏四月廿二日迄日数廿七日分、閏四月廿三日が坂

町と兩町ニ而隔日ニ相成候間、六月六日迄町内罷出候間、此日数

四十八日分、式日割式十四日分、四月廿六日より日数

二口ノ五十一日分

日々銀五匁つゝ

皆銀貳百五十五匁也

此金四兩老分也

五月廿七日癸卯 天氣 市右衛門・儀左衛門

一、會計所詰番之義、昨廿五日が六月五日迄町内ニ而持切相成申候

一、今日定例之通下勘定仕候処、く組町々江定番人給分之義、錢相場

兩ニ拾八貫四百文替ニ相成候間、書役・定番人共暮方難相成候ニ

付、区々ニ相成不申候様同月番ニ而取極候間、町内相談之上、行

事庄吉殿懸りニ而取極候間、銘々銀匁ニ相直し遣候間、為後年記

置もの也

五月廿八日甲辰 天氣 五郎兵衛・五兵衛

一、天王別当所ニ而、氏子・町内安全として定例大般若経行有之申候、

錢相場下落ニ付

一、金貳分差出申候、尤諸式高直ニ付、割増共

一、目黒不動尊江泰平講町内為安全と参詣、山田屋藤七殿・伊豆屋五

郎兵衛殿・青梅屋庄次郎殿・手前并桶屋定吉殿・煙草屋清五郎

殿・伊せ屋藤吉殿・家根屋儀左衛門殿・大坂屋茂助殿・伊豆屋五

慶応四年五月二十八日〜三十日

兵衛殿・菊屋三五郎殿、都合拾老人ニ而罷越、左之通り

一、金三分 大護摩料

一、金五分 垢離場待合割

一、金壹分 御神酒料

一、金壹兩壹分

内金壹分 護摩料七軒町を差出申候

一、金壹兩三朱ト四百文 掃支度同所内田屋ニ而有之候

一、金貳兩壹分三朱ト四百文

内金三分引

一、差引一、金壹兩貳分三朱ト四百文

(此カ) 皆銀百貳匁五分

右ヲ拾老人ニ割 老人分

銀九匁

此金貳朱ト五百六拾四文つゝ

右之通割合仕候間、記置もの也

五月廿九日乙巳 天氣 庄次郎・甚右衛門

一、町内書役・定番人給分之義ニ付、一同番屋ニ而尚又一同江風聴之

上、睨と取極可申と寄合仕、銘々ニ地主江為心得と可申聞置旨取

極、定番人「」給分銀匁ニ致遣申候、書役之義者、先前を過ち

ん相足、金壹兩つゝ差出来候間、改而金壹兩つゝ別段先達而差出

来候金壹分貳朱増給分之義者其假ニ致置もの也

一、今日高島氏罷越、是迄役料之義、元錢相場五貫五百六拾五文之砌

取極候と相見得、其後者如何相成取極候哉、右錢相場之義者、町

会所江役料書上候砌之相場ニ御座候、依之左之

一、金六拾七兩貳朱ト五百拾文 但兩に五貫五百六拾五文

此錢三百七十三貫百拾文^(マ)を□匁ニ付八十九文つゝ

但當時錢相場兩ニ貳拾貫相場ニ相直し候得者、凡金拾九兩程、

壹ヶ年上り高ニ御座候

前書之通ニ御座候間、甚難渋ニ付、壹小間ニ付銀壹匁つゝ差出與

候様被申聞候間、依之記置もの也

五月卅日丙午 天氣 安兵衛・鉄郎^(五脱カ)

一、今日勅使御兩卿彦根屋敷江御入込ニ付、当番・非番ニ不抱、事馴

候もの老人つゝ可罷出旨申越候間、月行事庄三郎殿罷越、同所江

罷出、町内を行事老人罷出候旨相断相返り申候

一、今朝通七ヶ町寄合、高島氏給分其外之義も錢相場下落ニ付、難渋

之趣申出候一件、寄合仕候処

一、素役料銀匁ニ相直、差出し候而、如何可有之候哉、前書之趣一

同町内江立帰相談之上、六月二日否哉、尚又寄合仕候間、同

日惣町を可申出旨相談仕、引取申候

一、今日寄合ニ付、左之通り

一、金貳朱ト貳百文 茶くわし代

右之通加々屋^(マ)ニ而立替相成申候、以上

(貼紙)
「下谷・上野詰

徳川家正氣隊

市中取鎮方恩見廻役

松本信一郎

本多兵次郎

五月十日夕七つ時頃、下谷・上野詰徳川家正氣隊之趣申之、尤市

中取鎮方恩見廻り役松本信一郎・本多兵次郎兩人、高島玄闕江籠

越、当時浪人手当無之、夜喰一飯振舞吳候様申聞候得共、高島氏

義者、勅使陣營へ罷出、留守之義ニ付、年番町江申越候間、無餘

義金老分兩人江差遣し、相返し申候、尤其砌混雜仕候間、記落相

成候間、依之記置もの也

一、上総屋喜兵衛殿妻義病死仕候間、明六月朔日明ヶ六つ時葬式ニ相

成申候

一、行事庄三郎殿會計所江罷出候一件ニ付、罷帰候節、山田屋・永田

屋講枳場、其外四五人連ニ而四百文紺屋ニ而団子相求申候

六月朔日丁未 天氣 藤七・忠兵衛

一、昨晦日昼四つ時頃土用入相成申候

一、上総屋喜兵衛殿妻死去ニ付、今日夕三十日之間相除申候、葬式明

六つ時、寺者音羽六丁目蓮光寺ニ御座候、漸昼四つ時頃帰宅仕候

一、廻町平川町老丁目万伝と申、鯉節屋の隣ニ而、中氣之根切名灸は

とこし有之候間、同所江罷越候処、塩屋ニ而年齢六拾五六歳位之

慶応四年五月三十日〜六月二日

人ニ而、日蓮宗と相見得、床面ニ者下総の中山鬼子母尊神之御神

影之懸物をかけさし、祈念之上、灸三火つゝすへ吳申候、御初穂

之義者思召次第、御神靈江御初穂として四十八銅差上、灸料とし

て百錢老枚差上相帰申候、尤忠兵衛店建場藤次郎殿同道ニ而兩人

罷越申候

六月二日戊申 天氣

庄三郎・秀次郎

一、高島氏役料一件、七ヶ町寄合之上、左之

一、三貫文

此金貳分也

一、貳貫五百六拾四文

此銀貳拾五匁六分四厘

一、五貫七匁

此銀五拾七匁也

一、五貫三百文

此銀五拾三匁也

一、四貫四百八拾四文

此銀四拾四匁八分四厘

一、六貫文

此銀六拾匁也

一、六貫三百拾貳文

此銀六拾三匁壹分貳厘

庄吉

秀次郎

秀次郎

秀次郎

伝馬町老丁目

伝馬町老丁目

同町新老丁目

定使とも

伝馬町老丁目

同町三丁目

同町三丁目

同町三丁目

塩町老丁目

塩町老丁目

塩町老丁目

同町三丁目

同町三丁目

同町三丁目

慶応四年六月二日

老ヶ月

銀四貫〇〇三匁六分八厘

此銀三百三拾三匁六分四厘三分六厘四毛

老ヶ月

銀四貫〇〇三匁六分八厘
此金六拾六兩貳分拾三匁六分八厘

右之通七ヶ町行事・居付地主立会取極候間、為念記置もの也

覚

一、銀四百四拾匁 八百八拾間ニ割、老小間ニ付、銀五分つゝ

一、金三分ト貳百廿四文

伝 老

一、金貳分貳朱ト三百文

新 老

一、金老兩三朱ト百四十八文

伝 貳

一、金老兩三朱ト老貫四十八文

伝 三

一、金三分貳朱ト九百文

塩 貳

一、金老兩老分老朱ト九百七十貳文

塩 三

一、金老兩三朱ト百四十八文

塩 老

ノ内 但来十日取集之筈、惣町江相達置申候、以上

一、金五兩也

当正月の五月迄分、名主方江心付、惣

町之割

一、金老分貳朱也

閏四月二日、町会所ニ而御救米頂戴ニ

罷出候節、名主并下男支度代

閏四月廿二日

一、金貳朱ト貳百文

竹矢来、上野御山内外構補理候ニ付、
小間ニ付銀老匁貳分つゝ割合之節、茶
くわし代

一、金貳朱ト貳百文

七分積金取集之節、惣町行事寄合之砌、
茶くわし代、尤四月分・五月分取集候
ニ付

一、金老分也

五月十日夕七つ時頃、上野彰義隊之趣
申之、夕飯手当差支候旨申之、玄関江
罷越候ニ付、支度代割

一、金貳朱ト貳百文

五月晦日高島氏より役料錢ニ付、銀匁
ニ直し候一件ニ付、通七ヶ町寄合茶代

一、金貳朱ト貳百文

六月二日高島氏一件ニ付、役料取極候
ニ付、惣町行事・居付立会候ニ付、右
入用割合候砌支度代

一、金貳朱也

同日焼酎貳合代
同断之砌并拾貳代、角大払

一、老貫八百文

同断ニ付、使ちん
五月九日先鋒惣督之宿陣入用、老ヶ月
老小間ニ付、銀老匁位取集置可申置(マ)
ニ付、寄合入用

一、金六兩三分ト九貫八百文

右之通取極候間、記置もの也

六月二日

六月二日町会所ニおゐて御救米被下置候旨之御触書有之、依之町内

家主一同今晚寄合仕候、依之記置もの也

一、名主役料之義、四貫百六拾四文之処、錢相場格外直下ニ付、難渋

申出候間、老ヶ月役料、定使共式口メ四貫四百八十四文之処、今

般寄合之上改、銀四拾四匁八分四厘と相改候間、記置もの也

六月三日己酉 天氣 庄三郎・兵藏 *秀次郎*

一、上総屋、此義者書損ニ付、相除申候

一、自身番屋ニ罷在候処、福与村市郎右衛門殿むすめよの義罷越、夕

刻小舟町式丁目新道の番屋江相帰申候

六月五日庚戌 天氣 惣七・清吉 *兵藏*

一、御救人別下調帳取調候処、無別条候事

一、*会計所詰番之義、去廿五日去今日迄相詰候間、明五日去坂町去の

罷出可申出事*

六月五日辛亥 天氣 清次郎・安右衛門 *清吉*

一、今日五つ半時、珍平地借弥助後家きち義、相手方へ申通可能出旨、

北裁判所御差紙ニ付、罷出候処、相手不参ニ付、来十日出之日

延申上

六月六日壬子 天氣 清次郎

一、今日去自身番屋詰合*昼*夜番之義者、御免相成申候

一、町入用取集相済申候

*、昨五日会計所詰番之義、坂町去罷出候間、当町去罷出候鉄五郎

店龜吉義、行事代りニ差出置候処、今般相帰候ニ付、左之

一、金三分式朱也

右之通相渡遣申候間、記置もの也*

行事庄三郎義、五月晦日去六月八日迄相動メ可申候事

一、今六日朝五つ時、大変革違物数多廉々有之、依之巨細者御触帳江

記置候もの也

一、講中集高金老兩式朱ト式貫式百文有之候ヲ、清助去請取、此金老

兩三朱ト老貫七十式文有之、七軒町五郎兵衛殿金式朱也、茶屋去

金老分老朱、兩人ニ而差出候間、合金老兩式分相成申候左之

一、金老兩老朱ト四百文 目黒内田屋ニ而支度拾老人分

一、金老分也 七軒町護摩料 七軒町

メ金老兩老分老朱ト四百文

右之通煙草屋清五郎殿立替候間、同人江相渡申候、差引殘金老

分老朱也、徳兵衛預り置申候、尤是迄金式分立替置候間、手前

出銀分金式朱ト五百六十四文相成候間、差引メ金老分老朱ト五

百五十六文受取申候、差引メ五百拾六文差出候得者、前書目黒

慶応四年六月二日〜六日

慶応四年六月六日～八日

山参詣入用割相濟申候

六月七日癸丑 天氣

一、昨六日庄吉殿義、祭礼之義ニ付、別当所江罷出候、然ル処、神主
木村隼人殿罷越、今般

王政御一新之折柄ニ付、兩部別当之義者都而御廢止相成候ニ付、
左之通

一、大伝馬町・小舟町兩町天王様之

御神号 八雲社

一、南伝馬町之義者 須賀社

前書之通天王様御神号等相替候ニ付而者、四谷鎮守天王様義も
大伝馬町同様ニ相改正可仕之処、稲荷大明神と兩社祭礼之義ニ

付、八雲社と改正仕候而者、差支候義も有之候ニ付、

左之

一、武荒氣天神社
ムトウテンシン

一、武搭天神社
タケアラキ

前書之通相改可申旨、天王世話人中江木村氏右之通被申聞候
間、依之当年之義者、神輿仮屋・神事巡行之義可仕、惣町世話
人中相談之上ニ而差出可申旨、被申聞候由、世話懸庄吉殿より
神輿遷座可仕旨被申聞候間、行事一同相談之上、年番町二者候
得共、官軍方御滞陳中之義ニ付、不容易御時節之義故、祭禮年
番之義相断可申旨、家主一同治定之上、祭禮年番町と申名前者

相断、惣町持ニ而巡行之義者、相断可申旨、示談仕べくもの也

六月八日甲寅

一、定例之通天王神輿舳付ニ可罷出旨之趣ニ而、左之

一、八百文 白米四升代
(味噌)

一、豆ふ代 香の物代

一、むきみ代

一、

一、

一、今日神輿舳付ニ罷出候処、惣町行事罷出候席ニ而、当年之義者、
不容易御時節柄ニ付、当年祭礼年番之義者、御断申上、居祭礼ニ
而も、既昨今御旗本・御家人之面々御暇相成候間、祭礼之義者、
御断申上、来年ニも相成候ハ、当町年番相勤可申旨相断、当年
之義不依何事ニ祭礼之義者、七ヶ町持ニ而仕候ハ、否哉不申出
旨世話中江相断候処、当年之義者格別之義ニ付、世話人中一同ニ而
世話進退仕り候ハ、惣町並ニ而、今日家主兩三人ニ而神輿之舳
付可仕旨ニ而、山田屋藤七殿・永田屋珍平殿・山田屋庄三郎殿其
外兩三人ニ而相残、其余之もの者相帰申候、跡ニ而舳付相濟候後、
永田屋氏・山田屋庄三郎殿・丸屋庄吉殿相残、種々之談判ニ而、
来年祭礼相勤候ニ不及候間、諸勘定之義、立替呉候様被申聞、当
町ニ而金子立替相断候ハ、何れ之町内ニ而も迷惑仕候旨被申聞

候、依之町内ニ而も廉々相断候ハ、惣町江対し候而も如何ニ可有
之と相談之上、当町ニ而諸入用立替之義承知可仕旨被申聞候間、
依之記置もの也

六月九日乙卯 天氣

一、明十日御救人別帳町会所江可差出旨、惣町今日持寄可仕管、打合
有之候間、昼前ニ町内分相認、玄関江罷出候処、忍町義者間ニ合
不申候間、依之玄関ニ而相認、手伝申候処、坂町義者何分出来不
申候間、明後十一日罷出可申旨、猶亦相延申候
行事今九日ヨ来ル十三日迄秀二郎殿

六月十日丙辰 天氣

一、今日町会所江罷出候処、惣町塩三不都合之義申出候間、明後十二
日出之積ニ取極申候、尤明十一日之義者、名主方ニ而差支之義有
之、無餘義相延申候

六月十一日丁卯 天氣

一、須賀社唱替之義ニ付、近江屋源次郎殿神主木村氏宅江罷出候上ニ
而、明十二日隼人殿江篤と談判之上、氏子町々差障有之候間、居
祭禮之義、木村氏ヨ社寺裁判所江御届罷出申候処、願之通御聞濟
相成申候、尤額面之義者

須賀社

慶応四年六月八日ヨ十三日

稲荷社
職之義者
須佐之男神
稻生大明神

右之通取極候間、依之記置もの也

六月十二日戊午 天氣

一、御救人別帳通七ヶ町并御扶持人共、町会所江差出申候、尤高島氏
同道ニ而罷出申候、刻限早刻罷出候間、支度之義者大横町魚幸ニ而
井ニ而支度仕候、立替伝式左之通
一、右之通り御座候間、記置もの也

一、同日天王拝殿ニ而神號取極候ニ付、氏子町々寄合之上ニ而、居祭礼
執行相談、尤南伝馬町神輿仮屋神事有之候間、区々ニ而決定不仕
候、最早夕刻ニ相成候間、丹清ニ而并拾五代
一、七貫式百文

前書之通支度代有之候間、記置もの也

一、十二日之義者、受領地取調書上ニ而、私義者天王拝殿寄合席江者不
罷出、徳川家受領之分伝卷・伝式、武士地之分取調差出申候、記
置もの也

六月十三日己未 天氣

慶応四年六月十三日、十八日

一、天王拝殿ニ而、通七ヶ町世話人・行事相談之上、居祭禮取極、取替之義者、塩耆相勤、来年ニも相成候ハ、年番相勤候ニ不及旨相談取極候ニ付、夫々鮫河橋町々例年之通、高張提灯差出呉候様相願罷越申候

一、同断ニ付、十七日、十八座神楽名前替ニ付、相奏候ニ付、鮫河橋八町ニ而も心持次第投餅差出呉候様頼ニ罷越申候、依之夕刻相成候ニ付、丹清ニ而支度代

一、金壹分貳朱ト三百拾六文
尤罷越候もの者、伝貳三軒、伝耆大木屋、伝三半七殿、上州屋七兵衛、丸屋庄吉殿其外ニ而罷越申候間、記置もの也

六月十四日庚申 天氣

一、今日ハ行事兵藏殿 十九日迄

一、加々屋角太郎殿不首尾ニ而、汐留江引渡相成候間、旦那留守中之義ニ付、伊三郎・五郎兵衛殿種々心配致呉候間、汐留江罷越、同所ハ文通貰受、右ヲ以相詫漸加々屋江相帰申候間、記置もの也、
一、尤汐留ニ罷在候内、大雷ニ而御浜辺江耆ヶ所、本銀町辺江耆ヶ所御下り相成申候

六月十五日辛酉 天氣

一、今日職・挑灯建願ニ永田屋氏・伝耆忠八殿・手前共三人ニ而、南裁判所江罷越、帛支度南数寄屋町黒武と申あなこ屋ニ而支度、金

貳分ト九百文相払申候

一、当年之義者、尾州様官軍ニ而御陣所ニ相成候間、尤四谷最寄之義者同所御持場ニ付、御届ヶ罷越候処、御徒目付野呂勘之介殿方江書面差出申候

六月十六日壬戌 天氣

一、今日拝殿江神輿相直し、賽銭箱置場其外相成、且亦駒寄際人除手摺補理、其外高張挑灯、桧杭打直させ申候
一、同夜鮫河橋南町久兵衛殿年番行事ニ付、惣町ハ金耆兩貳分持參、山田屋氏江割合候上ニ而、金子受取申候

六月十七日癸亥 天氣

一、神號唱替ニ付、十八坐神楽相奏し候ニ付、三島氏江金耆兩三分差遣申候

一、今日赤飯耆斗五升 代金耆兩貳朱也
一、染煮百五拾人前 代金耆兩耆分貳朱也
右之通記置もの也

六月十八日甲子 天氣

一、居禮祭ニ付、天王拝殿江詰合罷在候処、木村隼人殿神號唱替御祈祷有之候

一、今夕八つ時頃、欠付甚藏神楽昨十七日相濟候ニ付、投餅賦ニ罷出、

忍原横町通り懸り候処、瓦屋方右衛門義店子兼吉ニ被致切書、相
果候、途(脱アルカ)中通懸り候ニ付、利不尽ニ打擲被及候ニ付、怪我致帰候
ニ付、惣町(マ)を為手間金式分差遣ス
一、同夜暮六つ時、町内往還ニ三才位ニ相成候小兒、迷ひ居候間、取
調見候処、市谷柳町家主乙吉方江相届呉候様頼状有之候間、同人
方江使差遣候得共、不罷越候間、行事名当(マ)ニ而文通差遣候得ハ、
罷越候間、依之明十九日右乙吉方江可罷出旨示談取極申候

六月十九日乙丑 天氣

一、今日早朝山田屋氏・みの屋氏・徳兵衛同道ニ而市谷柳町家主乙吉
方江罷越候処、同人義者不居合候処、隣芳兵衛殿江罷越、承合候
処、右乙吉義者一件ニ付、親類方江罷越候ニ付、同人組合平八殿方
江罷越、種々談判之上、同組合藤田屋源助殿同道ニ而、乙吉親類
牛込横寺町瓦屋徳兵衛義者、迷ひ子齋吉伯父ニ付、同人江談判之
上為引取候様可仕旨申聞、瓦屋江右兩人罷越候処、前書乙吉母罷
越候ニ付、種々談判之上、乙吉姉ニ而小兒父又兵衛方江縁付候処、
先達而離縁ニ相成、乙吉姉義者病死ニ付、難引取義申聞候得共、
色々利解申聞、現在祖母并伯父之義ニ付、平八殿宅ニおゐて引渡
申候、尤為手当と金老兩小兒江手遊料として差遣置、立帰申候、
其砌平八殿宅ニ而昼支度、同所を差出申候間、依之記置もの也
一、右ニ付、弥三郎母江為世話料と金老分差遣申候、其節平八殿宅ニ
而くわし金老朱相調給申候間、記置もの也

慶応四年六月十八日〜二十三日

六月廿日丙寅 天氣

一、居祭禮ニ付、日々天王拝殿江罷出申候処、今日別条なし
今日を行事惣七殿 来ル廿六日迄
一、欠付甚蔵怪我致候義ニ付、惣家主中相談之上ニ而、町内を金老分
差遣申候

六月廿一日丁卯 天氣

一、今日義拝殿江相詰候処、氏子町々之もの共、神輿昇出しニ罷越候
風聞専ら有之候処、昼後ニ相成候而考、追々人数も相見得候間、
木村氏江相談之上、夕七つ時頃神輿土蔵江相仕舞申候、其後別当
所ニ而例年之通御神酒開別当所(マ)ニ而有之、其後ニ而不相替素麵差出、
猶亦御膳差出申候

六月廿二日戊辰 雨降

一、今日朝五つ時頃、氏子町々之もの共、神輿蔵を神輿昇出し、昇歩
行申候、尤雨天ニ者候へ共、氏子町々巡行、八つ半時頃相濟申候、
尤無滞ニ付、御組屋敷御隠密方南者渡辺喜平次様、北者岡田源兵
衛様方江御届ヶ申上候

一、同日町内義者、先例之通御神酒開き有之候間、記置もの也

六月廿三日己巳 天氣

慶応四年六月二十三日〜二十七日

一、惣町家主両三人つゝ、町内之義惣出^ニ而、神輿拜殿江修復^ニ差出申候

一、友吉一件落着^ニ而御呼出し、富山・河内屋両人共南御番所唱替御

裁判所御白洲^ニ而御奉行唱替判事土方大一郎様被仰渡候、左之

申 渡

四谷塩町老丁目 友 吉
勝右衛門店

右家主 勝右衛門

友吉義、夫々御仕置可被仰付処、今春

朝政御一新 朝廷

御元服之御大禮^ニ付、大赦 敵^レ朝、惡逆無道之外差免、右勝右

衛門江引渡遣ス

四谷塩町老丁目

家持小左衛門勢州住宅^ニ付

店支配人

質渡世 房三郎

同町 甚右衛門地借

質屋 藤兵衛

其方義、友吉^ノ質^ニ取品不正之付、品取上、右友吉義、御赦相成
候^ニ付、咎差免

右之通被申渡候間、依之記置もの也、富山代新吉殿罷出、寿し倉
^ニ而支度、帰り新吉義駕籠^ニ而四谷御門迄罷越、代金沓分式朱卜

式百文相払申候

六月廿四日庚午 天氣

一、神輿修復^ニ付、天王拜殿江式人つゝ番人^ニ罷出、今日義者安右衛
門・珍平殿罷越申候

六月廿五日辛未 天氣

一、町会所江呼出有之罷出候処、御救人別帳名前并年付其外等不調^ニ
付、書入^ニ罷越申候、尤帰り支度柳原土手通り稲荷河岸^ニ而、井
^ニ而支度、金式朱相払申候

六月廿六日壬申 天氣

一、塩崎一件、明廿七日落着^ニ付、山田屋氏江相對、今日町入用下勘
定仕候、依之記置もの也

一、右一件落着^ニ付、諸入用・禮其外多分^ニ相懸候^ニ付、年番町^ニ而立
替呉候様申出候得共、山田屋氏右者塩崎氏不容易義取巧候間、御
調等^ニも相成候義^ニ付、御用向^ニ候ハ、当町^ニ而何程^ニも立替、
御禮其外等も可仕候、惡事等^ニ而既^ニ御仕置等^ニも可相成義^ニ付、
当^ノ右一件之割合可取集義、相成難旨申断候得者、先者御含意^ニ
申置候旨、高嶋氏被申聞候

六月廿七日癸酉 天氣

一、塩崎氏一件罷出候処、茂八郎義者、吟味中自殺仕候処、追々吟味中今般之御義ニ付、咎差免、尤出入用中内濟候分も有之候間、右等之分證文等裁判所江可差上旨被仰渡、向後心得違之族有之候ハ、麴町名主与兵衛・市谷田町名主左内江申付置候間、塩崎茂八郎江相掛候沽券状并證文類不残裁判所江可差上旨、申論候様、別段被仰渡候、依之記置もの也

六月廿八日甲戌 天氣

一、先例之通天王拜殿ニ而祭禮諸入用・諸勘定共、同所ニおゐて世話人・行事立会ニ而割合仕候、尤小間ニ付、銀式匁七分つゝ相懸申候、惣小間之義通七ヶ町ニ而、八百八拾間ニ御座候間、為心得記置もの也

一、今日神輿修復ニ付、神輿蔵江相納申候

一、鉄五郎店源太郎義欠落仕候間、店請人俱ニ南御裁所江御訴申上候、尤出入中ニ付、御懸吉田様御訴所江御廻し相成、来月九日迄尋被仰付、七月九日日限尋否可申出旨、被仰渡候

七月朔日^(丙子) 天氣

一、当日義者居祭礼、入用記罷在候

七月二日^(丁丑) 雨降

一、諸入用請取帳相認罷在候

慶応四年六月二十七日〜七月七日

七月三日^(戊寅) 雨降

今日行事清次郎 十二日迄

七月四日^(己卯) 雨降

一、千葉一件、明五日連印不残、裁判江可罷出旨之御差紙御座候

七月五日^(庚辰) 雨降

一、伝老忠八殿同道ニ而、塩崎一件落着入用出来兼候間、七ヶ町相願、壹ヶ町ニ而金式分・壹分つゝ差出呉候様、町々巡行仕申候、尤婦り支度丹清ニ而、金式朱之并代、外壹朱酒其外代相払、都合三朱也

七月六日^(辛巳) 雨降

一、町入用定例之通取集申候、其後清助金四兩式分三井納金受取、不足之分手元立替、相納申候

七月七日^(壬午) 天氣無之雨降

一、定例之通、御禮相廻り申候、其後田中屋市右衛門義、玄関江被相呼、須田一件左之

乍恐以書付奉申上候

四谷塩町老丁目

慶応四年七月七日〜十二日

喜米渡世家持 市右衛門

右市右衛門奉申上候、当三月中、山田専之助と申ものニ、白米被^(マ)銜取候義有之哉、御尋御座候

此段当三月六日、前書山田専之助使之趣ヲ以、白米売呉候様申聞候間、相違も有之間敷と存、尤代金引替之積ニ而左之

一、白米四斗老升八合

メ代金貳兩也

右之通同御屋敷江持参仕候処、代金之義者主人他行ニ付、夕刻迄相待呉候様申聞候間、同刻代金受取ニ罷越候処、相渡不申、

其後日々催促罷出候而も、主人留守而已申聞、更ニ取敢不申、然ル処今般右始末

御尋ニ付、此段申上候、以上

辰七月七日

右市右衛門

前書之通書面相認、玄関江差出申候間、記置もの也

七月八日癸未 天氣

一、今日祭礼入用取集仕候処、下勘定之砌者兩ニ拾貳貫四百文替之處、

今日取集之砌者兩ニ拾貫貳百文相場ニ而取集候間、金壹兩ニ付、貳貫貳百文程不足ニ付、惣躰ニ而金貳分不足相成申候

七月九日甲申 天氣

一、昨八日取集、諸勘定仕并御伝馬金割合仕り候処、多分錢不足相成

申候、依之記置もの也

一、^(マ)全金壹分式朱程不足相成候間、清助ヲ出銀可致旨、被申聞候間、其佩差置申候

七月十日乙酉 天氣

一、御伝馬金納罷出申候、尤早朝寄合仕候

一、馬込勘ヶ由殿先達而苗字帯刀御免相成候得共、惣町ヲ祝義ニ罷出候間、今朝七ヶ町寄合之上、金五百疋祝義差出申候、尤寄合ニ付、左之

一、金貳朱也

茶くわし代

右之通相立替申候、尤馬込氏納相濟候後、一同葺屋町大の屋ニ而井ニ而支度仕候、其後浅草觀世音江四万六千日ニ付、参詣罷越申候

七月十一日丙戌 天氣

一、麻布一本松長伝寺江参詣罷越申候、金壹朱也先例ニ付、差出申候、

金貳朱也^(マ)施我鬼料差遣申候、其後飯倉万寿亭ニ而芝居見物仕候、一ノ谷嫩軍記長^(マ)之段、陣屋の段、男達朝比奈藤兵衛兵助殺共都合四幕見切ニ而、帰宅仕候

一、^(マ)加々屋ニ而今日芋売見世開有之候

七月十二日丁亥 天氣

一、加々屋江定例之通、帳台罷越申候
其外別条なし

七月十三日 戊子 天気

今日より行事安右衛門殿 来十七日迄

七月十三日 戊子

行事今日より安右衛門殿 十七日迄

一、今日多分写物有之、罷越候処、錢相場之義者

一、金老兩二付

一、拾貫文より八貫文迄之割合ヲ以、錢商ひ之もの共商売可致旨之

御達有之候間、依之記置もの也

其外写物多分有之、依之記置もの也

七月十四日 己丑 曇

一、今日式百十日後日ニ御座候

一、錢相場拾貫文より八貫文之間ニ而、高下取引致し、商ひ可致筈ニ而、

御触出申候

七月十五日 庚寅 天気

一、錢相場高直ニ相成候義ニ付、惣店連印取申候間、記置もの也

七月十六日 辛卯

一、明十六日町会所ニ而、御救米被下候ニ付、先例之通頂戴罷出候もの江、并当差出度候間、一同寄合之上ニ而赤飯可仕筈示談仕候、

尤出銀方ヲ相願候処、左之

一、金貳兩也

富山氏

一、同貳分也

丹羽氏

一、同貳分也

加々屋氏

一、同貳分也

田中屋氏

一、同老分貳朱也

相木屋氏

一、同老分也

永田屋氏

一、金老分也

伊豆屋氏

一、金貳朱也

三河屋氏

一、金貳朱也

箱田氏

メ金四兩三分也

右之通出銀、表立候方より貰受、赤飯并煮染式百五拾人前差出申候

前書之通銘々家主方より地主衆中江願出、其町ニ而種々歎願致、金子

出来候ニ付、町内番屋ニ而

一、金老兩老分ト三百七十式文 糯米代

右者筆筒町能登屋長吉殿方ニ而、別段骨折、老斗五升替ニ而相求申候

一、小豆之義者、相木屋惣吉殿方ニ而相求申候

代錢

一、煮染之義者、清香屋ニ而仕候、がんもとき其外三品、家主衆中并

慶応四年七月十六日〜二十五日

名主方江差出申候、弁当煮染之義者、凡四拾人前、肴切つゝ相添申候、十六日夜九つ時迄頃不残出来、暁七つ時頃朝飯拵、惣家主衆中呼寄、支度為仕候間、記置もの也

七月十七日辰

一、町会所ニ御救米頂戴相濟、昼四つ時頃相濟申候

一、金三分也

森田屋氏茶代

右之通差出申候、以上

辰七月十七日

行事 安右衛門

七月十八日癸巳 雨降

一、大雨ニ而今日井伊掃部頭様御屋敷下大損しニ而、往來留相成申候

七月十九日甲午

一、別条なし

七月廿日乙未 天氣

一、別条なし

七月廿一日丙申 天氣

一、今日山田屋氏同道ニ而、川崎大師河原江參詣仕候処、去ル十七日八

大雨ニ而大洪水ニ相成、大森山本マの先者、老軒ニ而も床上江疊敷家マ

無之、家毎ニ床上江四斗樽積置、其上江衣類・諸道具積重ね、或

者棚杯出来候上江、衣類其外相のせ有之、六郷辺者一圓水ニ而近江

八景茶屋杯大損候、同所船渡しニ而元船場迄凡式丁程水付有之、

渡せん老人前三百文つゝ、往還共差出申候、尤大師河原近辺地形

低き所、梨子棚上江五寸位水つき候様子被申聞候、同所ニ而者梨

子泥水懸り候を、銘々洗ひ有之、前代未聞ニ付、記置もの也

七月廿二日

一、今日御救人別諸入用惣町割、当町番屋江通七ヶ町并坂町孝助殿、

御簞笥町半次郎殿罷越、惣人数七千三百八拾人ニ割合仕候

七月廿三日

一、庄吉店三吉外四人義、当五月中御救人別書上前、店引払候間、今

般相除候ニ付、人別送り本郷同朋町弥助店松五郎方江同居仕候間、

同町江

七月廿四日

人別差送り候処、右町家主并名主方マ文通ニ付、高島氏マの返事差

出申候、依之記置もの也

七月廿五日

一、今日龍吐水寄合有之候、当町ニ而者御救ひ人別諸入用割合、且亦

赤飯弁当差出候諸入用弘方仕候

七月廿六日 (マ)

一、五郎兵衛店吉五郎義、北臨時御廻り方呼出有之、罷出候処、麴町無宿定吉と申もの御召捕ニ相成、右吉五郎方江当五月中盜賊夜中忍入、錢箱老つ紛失仕内、錢取交八貫文程被盜取、右始末書差上候得者、追而御沙汰被仰出候

七月廿七日 (壬) 癸寅 天氣

一、定例之通下勘定相立申候、其後名主方達物有之候間、罷出可申
管御沙汰有之候間、早速罷出候処、女藝者・酌取女・踊師匠・常磐津其外都而、遊藝渡世之もの可書出旨、御触出申候

七月廿八日 (癸) 甲卯

一、今日北御裁判所江五郎兵衛地借差紙ニ付罷出候、定吉一件二付、始末書差上候処、中島錦次郎様御懸りニ而、追而御沙汰被仰出候

七月廿九日 甲辰 天氣

一、高島氏二季役料拝借、町会所御沙汰有之候間、依之今日七ヶ町取集、金拾兩高島氏代忠兵衛殿江玄関ニ而相渡、請取書押切取置申候、尤祭禮年番判取江取置申候
一、町内御救挨拶高島氏江金貳分徳兵衛立かへ、高島氏江差出申候

慶応四年七月二十五日〜八月朔日

一、通七ヶ町高島代忠兵衛殿江金老分差遣候処、同人申聞候者、今

般御救之義者、町々名主代江挨拶差出候様被申聞候間、忠八殿并忠助殿江申聞候処、是迄名主代江者先年も差出不申管取極有之候処、書役中取扱ヲ以差遣候処、心得違之義申聞候ハ、以來者忠兵衛殿方江者尚亦差出不申管取極申候、依之記置もの也

八月朔日 乙巳 天氣ニ無之雨降

一、今日女藝者其外常磐津都而藝人名前取調書上候ニ付、名主方江書役一同罷出申候

一、去ル廿八日川島炭老車差送候間、取調見候処、左之通り

一、炭六拾表老車 (マ) 但運賃六貫文

内金五兩分 伊豆屋五郎兵衛殿

四拾俵也

金老兩分 籠屋 清 吉殿

八表也 (マ)

金貳分也 大工 鎌 吉殿

四表 (マ) 代金貳分受取申候

金老兩也 自身番屋分

八表也 (マ)

メ代金六兩老分也

右之通割渡申候間、為後日記置もの也

慶応四年八月二日〜十日

八月二日丙午 天氣

一、加々屋五郎兵衛、七軒町菊屋兩家共北裁判所江可罷出旨、呼出有之、罷出候処、江口力之助・中村清三郎兩人江、先達而金子差遣候一件御調有之候間、始末書上追而御沙汰(ママ)

八月三日乙未 天氣

一、儀左衛門殿、桜田久保町喜八店初次郎外四人江相懸候出入、当金拾兩相渡、濟口相成申候、尤願人者南伝馬町三丁目家主藤次郎

中月四日戊申 天氣

一、甚右衛門店傘職惣左衛門義、傘張重次郎ハ新傘骨三本式朱ト式百廿四文買取、引合ニ而北御裁判所江罷出申候

中秋五日己酉 天氣

一、水天宮様江參詣罷越申候、昨夜みの屋安兵衛殿義、夜九つ時頃頓死、通夜罷越申候

八月六日庚戌 早朝大嵐昼後天氣

一、明ヶ六つ時安兵衛殿葬式、寺者市谷袋寺町之浄栄寺、葬式相濟、其後町入用定例之通り取集仕候、其後三井納ニ罷越申候

七月七日辛亥 天氣

一、加々屋・菊屋御番所呼出し、江口力之助・中村清三郎一件引合、御懸り尾崎三蔵様

八月八日壬子 天氣

一、千葉氏江罷越候間、表具屋罷在候間、手伝遊ヒ罷在候処、二枚折拵遣與候様被申聞、拵置置候

八月九日癸丑 天氣

一、今日徳川龜之助様駿府江御出立相成候間、為後年之記置もの也

一、昼前伝馬町老丁日向側武家地親規町屋願ニ罷出候積ニ而、同町ハ高島氏江書物ニ罷越候間、為心得記置もの也

一、昼後ハ千葉氏同道ニ而忍原寄江罷越申候以上 今日松風軒鬼市者伊賀越道中双六岡崎の段、小鞆太夫八右衛門義者、同円覚寺丹右衛門上使の段

九月十日甲寅 天氣

一、今朝虎の御門金毘羅様江參詣罷越申候、今日年番箱勘定不足相立候間、丸屋氏立会ニ而金高取調置候間、為後日記置もの也

一、今日名主ハ寫物有之候間、可罷出旨申渡候間、罷出候処、今度江戸之義東京と唱替相成候旨御達有之候間、依之家主衆中江板触ニ

致し相廻し申候間、記置もの也

一、永田屋珍平殿義、是迄家守致居候地所之義、地主村上三左衛門殿

お相對ヲ以買求メ、代金五百兩之券、沽狀ニ相直し、去ル六日夜書替、名主并組合書役・定番迄之義者、相濟申候、歩一金并町内披露之義者、来ル廿二日可仕管取極置候間、為後日記置もの也

八月十一日乙卯 天氣

一、自身番屋ニ而記置もの有之、其後塩三番屋へ罷越、帰り途中伝式忠助殿方へ、先達而立替金貳兩壹分貳朱ト壹貫貳百拾六文相渡申候、其後右忠助殿同道ニ而西念寺横町丹清方へ罷越、仕度仕候

一、同夜御救米小札大小貳拾枚御渡相成申候、尤四斗入壹俵金貳兩ト銀六匁三分貳厘割合ニ而、金子取集、町会所江罷出受取可申、尤金子出銀方之義者、銘々家主が差出可申約定取極申候、尤昨夜小札割合之義ニ付、金三朱也并三つ代、伝老大和田屋江相払申候、手元が立替相成候

八月十二日丙辰 雨降

一、田中屋市右衛門殿義、山田專太郎ニ白米貳兩被銜取一件、引合ニ而、北裁判所江被相呼、尤同心衆下調ニ御座候

去ル七月廿七日夜、麴町拾貳丁目向側ニ而、小達様相向罷在候鉄物屋見世先江、夫婦連ニ而罷出候道具屋方ニ而、脇差壹本買求メ、尤代金之義者、金壹分ニ取極メ、翌廿八日朝番屋江持參之義者、同人妻江相渡、品物之義者自身番屋ニ而取引仕候

慶応四年八月十日〜十五日

八月十三日丁巳 (ママ)

一、当月四日家主喜兵衛殿義、南裁判所へ呼出有之、罷出候処、左之通り

四谷塩町老丁目

元家主吉右衛門店

忠兵衛方同居

所 市五郎行衛不知候ニ付

跡家主 右 喜 兵 衛

右市五郎義、安政元寅年三月十五日所払申付置候処、今般朝政御一新ニ付、朝敵悪逆無道之外一切差免、依之当人身寄相知れ次第可申聞旨、被仰渡候間、依之記置もの也

辰八月四日

右之通り間為心得、日数相過候得共、記置もの也

一、高島氏が役料、当八月分が九・十と三ヶ月分借用致度旨申出候間、為心得記置もの也

八月十四日戊午 天氣

八月十五日庚未 天氣

一、今日町会所江罷出、御払米請取罷越、玄米四斗入ニ有之候処、当町之義者、古俵ニ而悪敷候間、はかり見候処、壹表壹升七八合不足相成候間、平均兩ニ壹斗八升替と相改、町会所へ是迄之諸入用

慶応四年八月十五日〜二十一日

壹俵金壹朱卜四百文つゝ相懸り候間、諸入用差引メ玄米壹斗六升
相場ニ而売払、^(マ)表数町内分

一、玄米 貳拾表 ^(マ)但四斗入

但町内籠数凡式百軒ニ割

老軒分玄米四升つゝ

此代金壹分取集申候

炭勘定相立候上ニ而

老軒分 銀壹匁つゝ相渡し申候

八月十六日^(庚)己申 天氣

一、今日忍原寄せ江罷越申候処、松風軒鬼一義者菅原三段目桜丸腹切、
翁太夫義者姥ヶ餅焰魔之異見之段、昼後の大雨ニ而、往還之もの
共も不都合ニ付、半札ニ相成申候

八月十七日辛酉 天氣

一、安右衛門店金太郎義、北御裁判所の御差紙ニ付、罷出候処、今日者
裁判所場所替相成候間、南北諸役人中見分ニ罷越、相休相成申候
一、暮六つ時、南北市政裁判所附兵隊小隊長林仲藏殿方の、町内庄次
郎店定吉召連可罷出旨之御呼出有之候

八月十八日壬戌 ^(マ)震

一、庄次郎店定吉一件ニ而、大久保与七郎様下御屋敷隊長林仲藏殿方

江罷出申候処、今日者召捕もの有之候間、明十九日朝五つ時頃可
罷出旨被申聞候

八月十九日癸亥 天氣

一、安右衛門店金太郎義、北裁判所江可罷出旨之御差紙ニ付、罷出候
処、今般御一新ニ付、同人義先達而不届有之、所払被仰付置候処、
大赦被仰付候間、記置もの也

八月廿日甲子 曇

一、嘉七店源兵衛義金三郎義、伊賀町家主源兵衛の相懸り候品物并時
貸出入、今日公事合之処、当日判事役相替候ニ付、相休追而
^(マ)
一、庄次郎店定吉義、市谷柳町家主平八の新宿大久保様江願立相成候
義、惣方立会可相濟旨、昨十九日被申聞候間、五人組鉄五郎為差
添、市谷本村代地団子茶屋ニ而立会候処、不行届候ニ付、明廿一
日大久保様御屋敷江罷出、^(マ)破判御訴可申旨示談仕候、尤懸合之義
者、是迄弟子長次郎七ヶ年之間仕着不残并給金として金貳両差遣
可申旨、麴町拾三丁目家主長次郎取扱呉候得共、願人平八不聞候
間、記置もの也

八月廿一日乙丑 曇

一、去ル十五日割渡候白米代金不参壹俵ニ付、金壹朱卜貳百廿四文つ

取集申候、尤先達而老俵代金貳両貳朱つゝ取集候不束分^(足カ)

一、今日桶屋定吉義、大久保様御屋敷江願出候処、仕着せ并給金不殘可相渡旨被仰聞候得共、右出来兼候旨申上候三付、御聞入無之、仕着不相揃候ハ、金五両可相渡、不足三候ハ、金三両二而可相渡、右出来兼候ハ、同御屋敷ニ差留置候旨被仰聞候、依之取扱人長次郎江為相任内濟可仕旨、示談致し致し^(ママ)、来廿三日迄日延致候得共、如何ニも心外之趣申之、御裁判所江相願度旨被申聞候間、無餘義庄次郎組合鉄五郎と申もの、左之

乍恐以書付御訴申上候

一、四谷塩町老丁目家主庄二郎他行三付、五人組鉄五郎申上候、市谷柳町家主平八、右庄二郎店定吉江相懸候一件、追々御日延奉願上候処、何分外弟子取締ニも相抱、承伏仕兼、右平八相手取市政裁判所江御訴訟可仕旨被申聞候間、依之此段御訴申上候、以上

八月廿二日^(マゴ)

庄次郎五人組 鉄五郎

大久保与七郎様

御役人衆中様

右之通相認候訴可仕旨、名主代忠兵衛殿被申聞、町役人共落度可相成旨被申聞候間、明廿二日可罷出答

八月廿二日丙寅 雨降

一、前書訴状、家主鉄五郎殿大久保御屋敷御届申上候処、御留守三付、

慶応四年八月二十一日(二十六日)

書面差置罷申候、願書下書相認同所江名主江罷出候処、何れニ而も大久保様江一応文通ヲ以可申上候上ニ而、願立ニ罷出旨被仰聞、今日見合申候

八月廿三日丁卯 曇

一、今日鉄五郎代ニ而、大久保様御屋敷江昨日之御訴書面差上、相帰候三付、尚亦伺ニ罷出候処、何れ共願可出旨勝手次第御沙汰有之、先達而差上置候請状下書御差戻相成申候、以上

八月廿四日戊辰 曇

一、今日市谷柳町家主平八、庄次郎店定吉江相懸り出訴可致旨訴状持参ニ付、同人も尚亦訴状持参、鈴木氏江懸合文通差遣申候
一、定吉、差出候懸合文通、大久保与七郎様御屋鋪隊長林仲藏殿方江孫右衛門殿名代ニ而訴状面ヲ持参、御手切相成候哉可窺出旨被申聞、断ニ罷出候処、入念候趣申聞可然取計候様被申聞候

八月廿五日己巳 曇

一、今日く組月並勘定丸庄氏罷出申候
別条なし

八月廿六日庚午 曇

一、定吉、鈴木氏江懸合文通返事取ニ罷越候処、代茂吉殿手前ニ参具

慶応四年八月二十六日〜八月三十日

候様被申聞候ニ付、罷出候処、内済致せ度旨、咄合有之、何れ先

方否哉之返事差遣可申旨取極、相帰申候、尤今般出入之義、平

八存意次第、平八〇詫さへ致候得者、何れ内済懇談行届可申旨、

懸合致置候、以上

一、昨廿五日朝五つ時頃〇四谷御門・市谷御門共〇切ニ相成、内藤新宿大久保与七郎様御屋敷引弘相成申候

八月廿七日辛未 雨降

一、町入用勘定割合、先例之通仕候

一、同日勘定之砌、田中屋義彼是申聞候義有之、右者当月勘定低き故

先達而中〇天王様其外立替金餘程有之候間、金三両見込入金可申

旨入置候処、彼是不都合之義申聞候得共、近日割合等も有之候ニ

付、相談之上、前書金三両之義者前書之通入置もの也

八月廿八日壬申 天氣

一、今日定例天王様江參詣相済申候、其後玄関江写物ニ罷越候処、市

谷柳町家主平八方〇定吉江相懸候一件、定吉存意通り取計候様被

申出候間、右之趣定吉江被申聞候

八月廿九日癸酉 天氣

一、今日庄次郎店定吉〇、市谷柳町家主平八〇相懸り、不実出入、南

御裁判所江奉出訴候得者、来ル九月五日出之

御裏書頂戴

仕候

一、同日九つ半時頃麴町拾式丁目中村屋繁蔵と申馬宿〇出火致し、町

内鉄五郎店七軒焼失仕候、藤七店式軒焼失仕候、尤拾式丁目・拾

老丁目・拾三丁目・御簞笥町・伝老・天徳寺門前六ヶ町〇店火消

罷越消留申候、ゆ組義者四谷御門〇切ニ相成候間、出火場所江者

不罷越候、手前方江同居手伝ニ罷越呉候もの者、拾式丁目浮屋勇

吉并伝老忠八殿、伝式忠助殿、伊賀町嘉兵衛殿、伝三利兵衛殿早

速欠付呉候ニ付、其節礼として勇吉・忠八・忠助殿江者手拭式筋

つゝ、嘉兵衛殿老筋、利兵衛殿其外江者言葉礼而已ニ罷出候、

欠付鉄五郎・甚蔵兩人江者、金式朱つゝ遣し申候、尤謝礼ニ罷出

候日限之義者、晦日ニ罷出申候

八月 九月晦日甲戌 天氣

一、竈数書上可申旨被申渡候ニ付、取急申上候

一、表裏共 式百

右之通取調申上候

一、庄三郎店長兵衛義、市政南裁判所江召連可罷出旨、御呼出有之罷

出候処、当五月朔日夜九つ時頃、裏入口貫木ニ而メリ致置候

戸、固辞明ヶ、売酒銭金式分ト三拾貫文盜取候義有之旨、御尋有

之候ニ付、右始末差出候得者、大沢藤蔵様御調ニ而、右盜賊之義者、

寅吉と申伝三三長其外江炮発致候賊ニ而、引合相成、追而御沙汰、

尤下谷簞笥町・伝三三三長兩家ニ而、人殺候旨被仰渡候

九月朔日乙亥 天氣

一、今日拾壹其外五ヶ町江消札之義ニ付、寄合有之、相談之上、壹ヶ町江金老分つゝ、頭江金老分、欠付・定番人其外江金老分、都合金貳兩貳分差出し、行事五郎兵衛殿隣町江挨拶ニ罷越申候、以來之義者、消札之義者町内持と取極候間、為念記置もの也

九月二日^(丙子)丁亥 天氣

一、昨夜取極向行事五郎兵衛殿罷出相済申候
一、今日二日東京府江御引移ニ相成、市政裁判所之義者、以來御廢止相成申候

九月三日^(丁)丙丑

一、通七ヶ町寄合仕り、先達而馬込氏帶刀御免之節、祝義其外天王別当所繕ひ、高嶋氏より願出候嶋田氏一件寄合仕候

九月四日戊寅

一、寅吉一件ニ而、庄三郎店長兵衛後家多義呼出し罷出候処、御調有之、依之始末差上候得者、追而御沙汰之旨、御懸り吉田忠次郎様被申聞候、東京府立派ニ出来、目を驚し申候、以來者御東京府と書面名宛ニ可認旨、御同人被仰聞候間、依之記置もの也

九月五日己卯 天氣

一、庄次郎店定吉（マ）市谷柳町家主平八江相懸り候一件、御白洲ニ而平八江御利解有之、先達而平八より大久保与七郎屋敷江願出候御り市谷裁判所者無之哉と嚴重御利解有之候

九月六日庚辰 天氣

一、定例町入用取集メ、相済申候
一、今日六日人別増減有之候
一、今日大木戸際万年樋甲蓋石折損し候ニ付、其段塩町三丁目月行事小一郎（マ）其段東京府御上水御改御役所江御訴申上候処、訴之趣承伏仕候旨被仰聞候

九月七日辛巳 天氣

一、昨七日通七ヶ町分増減出来兼候ニ付、今日伝老忠八殿宅ニ而、同人并徳兵衛・忠助・佐吉并二塩式長八其外人別増減出来後、右入用割合勘定仕候間、記置もの也

九月八日壬午 曇

一、通七ヶ町、去ル三日寄合之上、割合出銭高等取集メ、夫々仕払、判取帳江印形取置申候、依之記置もの也
一、今暮六つ時頃（マ）町内番屋ニ而、古道具屋渡世之新規出来ニ付、右渡世之もの押切受渡世等を可仕旨、高島氏被申渡候間、依之規定

明治元年九月八日〜十二日

取極メ、今般之義者名主方弘メ而已ニ而、仲間一同之弘メ無之候間、新規押切受可申管ニ而取極メ、竈^(竈カ)ニ而合羽屋喜右衛門悴金次郎行事相当候間、記置もの也

九月九日 癸未

一、大木戸際二年齡六拾歳位ニ相成候無宿野非人躰之もの、車ニ乗病死罷在候間、右之段塩町三丁目行事小一郎殿被申出候間、当年番之義ニ付、高島氏江申出、組合名主見分濟之上、御訴可仕管之処、差支有之明日御訴可仕管ニ而、死骸之義者、品川^(品川)廻り治兵衛、浅草溜吉五郎兩人ニ而取片付仕候

九月十日 甲申 天氣

一、今日組合名主山中氏・高島氏同道ニ而、東京府へ御訴申上候処、死骸取片付被仰付候

一、定吉^ル市谷柳町家主平八江相懸り出入初吟味、中村八郎左衛門様御懸りニ而、双方御呼出し相成、定吉義者、年季證文不仕候段者不都合之由被仰聞、相手方平八義者大久保与七郎江願出候段始末書差上可申旨被仰聞、双方名主共取扱可相濟旨被仰聞、来十七日出御日延申立、御聞相成、依之十六日大泉ニ而立会仕候上ニ而否哉可申上旨、打合仕候

九月十一日 乙酉 天氣

一、今日別条無之、御玄関ニ而御達有之、左之四寸巾長式尺

歸郷上地
何拾何坪
何之某

朝臣願中之分

受領地上地
何百何拾坪
何之誰

駿府江主人ニ付添候分

上り地
何百何拾坪
何之誰

右之通庇下江張出可申旨、御触達書有之候

九月十二日 丙戌 雨降

一、今日前書之通銘々取調可申上旨被仰渡候間、一同調書差出申候
一、玄関ニ而種々打合有之候間、追而取調書等差出し可差上旨被仰渡候
一、其外別条無之候間、記置もの也

九月十三日丁亥

一、加々屋(マヤ)より北新堀町江塩(マヤ)三拾表買(マヤ)ニ罷越申候、尤兩(マヤ)ニ表表八步(マヤ)ニ而金貳拾六兩三分三朱ト貳百八十八文相渡申候

九月十四日戊子 天氣

一、嘉七店金三郎義、為公事合と、御東京府江罷出候処、御吟味之上、追而御沙汰有之旨被仰渡候、尤調物有之御白洲(マヤ)ニ而手間取候間、漸同夜五半時頃帰宅仕候

九月十五日己丑 天氣

一、加賀屋(マヤ)ニ而御家内衆中猿若町式丁目江罷越し候間、留守番(マヤ)ニ罷出候様被申聞、留守居(マヤ)ニ罷越申候

一、今日久世様一件、模様替相成候趣(マヤ)ニ而、芋洗坂之内田様と申御仁罷越候間、牛込弘方町弥助殿方へ久藏義使(マヤ)ニ差遣申候

九月十六日庚寅 天氣

一、久世様御屋敷一件ニ付、加々屋(マヤ)ニ而大判貳枚入用之趣有之候間、三井・中中(井)・竹原其外本兩替屋罷越候処、当時相休罷在、日本橋近辺所々相尋候得共無之、堀江六軒町よしや油店(マヤ)ニ而漸老枚有之、近辺承り(マヤ)□申上、同家(マヤ)ニ而左之

一、大判 貳枚

明治元年九月十三日〜十八日

此代金 五拾四兩也

右直段(マヤ)ニ而買取、貳番町久世様御屋敷江罷出、前書之金子相渡申候

一、庄次郎地借定吉(マヤ)の柳町家主平八江相懸り候出入、今日大泉(マヤ)ニ而立會仕候処、平方方(マヤ)ニ而者拾四歳(マヤ)の六ヶ年半之間、老ヶ月金貳朱つ之割合(マヤ)ニ而、都合六兩貳分式朱貫受度旨申出候、定吉方(マヤ)ニ而者、篤と勘弁致候処、是迄年来職業候義、殊二年季中故、右躰老人江迷惑相懸(マヤ)ケ候ニ付、向後定吉江迷惑等相懸(マヤ)ケ申聞數旨、詫一札受取御下(マヤ)ケ相願度、殊師弟之間柄故折を見合、残仕着之義者差遣し候旨申聞候ニ付、双方共齟齬相成候ニ付、何れ(マヤ)ニも双方行違候ニ付、仍而御利解相願候上(マヤ)ニ而否哉可申立旨、大泉(マヤ)ニ而立會不行届、帰宅相成申候

九月十七日庚卯 天氣

一、定吉一件 御東京府江罷出候処、双方より立會之上、口上書差上申候、定吉方(マヤ)の者長太郎一件ニ付、相手平八(マヤ)の詫書差入候得者、追而仕着之義者差遣し可申旨申聞候

相手平八義者、定吉方江雇(マヤ)ニ差遣し候義ニ付、給金并衣類共受取度旨申聞候間、其段始末書上、名方(マヤ)の申立候得者、追而御沙汰之旨被仰聞候

九月十八日壬辰 天氣

明治元年九月十八日〜二十二日

一、去ル十六日東京府ニおるて年改

明治元年

右之通り改元被仰出候旨、御達有之候事

九月十九日癸巳 天氣

一、塩崎氏御番所落着相成候ニ付、今日忌日ニ相当候間、忠八殿・忠

助殿・御隠居共都合四人ニ而、深川正源寺江墓参りニ罷越申候、

御経料金壹分差出し、金貳朱御隠居支度代、百四拾八文御花料、

金壹分老朱ト百四十八文永代橋広小路ニ而三人支度代、先達而金

貳分人別増減江入置候間、差引ノ金壹朱ト三百文忠助殿ニ而立替

相成候間、追而割合之節入置可申答

一、嘉七店金三郎義、御差紙ニ付、罷出候処、伊賀町源兵衛ノ相懸り

一件、初吟味ニ而、御懸之義者加藤新左衛門様御吟味之上、来廿

三日出

一、町内持場外永田様御屋敷前、河岸通り江左之

從是西 東京府附屬 木村市三郎取締所

但阿波中納言様隊長之趣ニ御座候

傍示杭相建申候、尤伝馬町老丁目上水番人彦兵衛脇江も前書之通

相建申候、大木戸外理性寺門前江も同断老本相立申候、尤傍示之

義者永田屋珍平殿請負ニ而、同人宅ニ而補理申候、傍示杭相認候も

の者、南茅場町小西惣兵衛と申仁ニ而、已前兩國橋渡初致候仁ニ

御座候、青山久保町山崎半兵衛殿代金八殿同道ニ而罷越申候、尤

渋谷道玄坂江老本、赤坂江三本、同人認メ候傍示相建候間、為心

得之記置もの也

九月廿日甲午 天氣

一、道具屋押切両三軒致遣し、其後写物等有之、玄関ニ而日を暮し申

候

一、同夜七つ時頃六番町ニ出火有之、人足之義者四谷御門外ニ相詰居、

夜明ニ引取申候

九月廿一日乙未 天氣

一、通七ヶ町寄合仕、大木戸際七ヶ町持場内上水甲蓋折損候ニ付、其

段手当致置、御普請方御役所江当月六日御訴、其外入用

一、同断持場内ニ当月九日行届有之御訴入用割合、其外通七ヶ町絵図

面之義、先達而忠兵衛殿咄し有之、一同江相談仕候処、一応年

番町ノ錠と懸合候上ニ而、請戻可申旨被申聞候間、記置もの也

九月廿二日丙申

一、今日十九日傍示認候砌、諸入用高島氏江差出し、瀧山氏江持参ニ

而諸入用割合相成申候

一、昨廿一日ノ行事鉄五郎殿

一、去ル廿日京都御出輦相成候ニ付、御道筋町々御達書其外有之写物
数多御座候

一、今廿二日義者 天皇様御誕生日ニ付、工商人共家業相休ミ、御
嘉節を奉祝候様御触出候事

九月廿三日丁酉 天氣

一、鞠向局小林光藏と申侍老人罷越、同人調度候間、番屋借呉候様被
申聞、被立帰申候

一、嘉七店金三郎義、御呼出し、懸合之上、来月二日出、御日延申上候

九月廿四日戊戌 天氣

一、今日浜川厄神様御祭礼ニ付、參詣罷越、帰り白銀覺林寺之清正公
様江參詣罷越申候、帰路途申筆老本相求

九月廿五日己亥 天氣

一、今日天王横町貸附所、今般屯所相成候ニ付、町々行事老人ツ、
一昼夜式人ツ、詰切之筈ニ而、町内之義、坂町と組合十月朔日詰

番ニ相成、先達而先鋒惣督宿陣割之積ニ而、先日兵藏殿迄相勤候
間、来月朔日之義者惣七殿が相勤候筈ニ而、取極申候

一、今晚寄合之上、天水桶補理可申筈ニ而、定吉方ニ而擁相直し、紐
相付可申事

一、昨廿四日鉄炮洲川島が炭六拾表被送候間、左之通割合申候

明治元年九月二十二日〜二十六日

一、炭六拾表也

内八表代金

八表代金

八表同断

八表同断

十表同 老兩老分

式表同 老分 濟

式表同

式表同

式表同

差引ノ拾表也

代金老兩老分也

右之通割合仕候間、為心得記置もの也

辰九月廿四日分

一、今夕刻が嘉七店金三郎義、源兵衛殿より相懸り候一件、今晚為立

会と可罷出旨玄関が被申越候ニ付、罷出候処不相届、尤富山義者

不相分候間、尚亦明廿六日立会可仕筈可致候

九月廿六日庚子 天氣

一、今朝七半時頃、玄関より配符到来ニ付、朝五つ時頃惣町行事代ニ

而、書役一同罷出候処、今般屯所諸入用急場立替四谷中傍示杭其

外、木戸取仕付代金三百兩程有之候間、先達而惣町行事申江達置

青梅屋源藏

看屋清次郎

紺屋要次郎

三河屋甚右衛門

大工鎌吉其外

□正之進

建場藤二郎

裏龜吉

同虎吉

町内分

張番

徳*

(備七書)

式 五番

式 松ヶ根屋

*式 寅吉

式 新藏

式 天王

明治元年九月二十六日〜十月朔日

候通り、当四月中々々ヶ月小間銀壹匁つゝ、取集置候入用可差出旨、御沙汰有之候間、何れ之町内ニ而も積金無之、依之先達而塩耆富山ニ而金廿五両也、伝三三長ニ而金貳拾五両也、塩式近藤ニ而金百両也、都合金百五拾両也、先鋒惣督彦根邸入用立替相成候間、右町々相除、残町々ニ而立替今般之義者、取計被下置候様惣町書役中高嶋氏へ申出置候間、記置もの也

九月廿七日辛丑 曇

一、今日先例之通り下勘定、先達而寄合之節、町入用之義、明細ニ相認メ可申旨、永田屋氏が被申聞候旨、山田屋氏江相談仕候処、以来彼是申候家主中、其都度々々ニ勘定ニ罷出候様可申聞旨被申聞候間、一同相心得罷在り候様可致候事

一、昨廿六日が山田屋氏月行事相当候間、町入用名前之義者、甚右衛門殿立会候間、行事兼帯ニ相頼置候間、為後日記もの也

一、近々 天皇様御下向ニ付、町々火之元為取締と、嚴重之御触出有之、表之間数ニ応し、天水桶差出可申旨、御沙汰有之、今日桶定請負人ニ申付候間、丸庄氏ニ而為塗、左之通記相付申候



天水桶表

尤紅から江
洪を交印申候

右之通印置候間、記置もの也

一、東京府附捕亡方囚人穀安同道ニ付預り置、清次郎・安右衛門右兩人泊番致申候、尤先鋒之小口番ニ御座候間、当番為致申候

九月廿八日乙寅 雨降

一、今日早朝高島氏江月行事印形持參可罷出旨之配符ニ付、罷出候処、(正舊)四谷・赤坂・青山辺之義者、都而赤坂素火消触竹腰伊豫守屋敷本営相成居候木村市三郎様御取締場所ニ付、異変等有之候ハ、早速同所江可訴出旨被仰渡候

一、目黒不動尊江伊豆屋五郎兵衛氏・煙草屋・大坂屋・越藤兄弟・桶屋、拾老団子屋友吉、手前共都合九人ニ而參詣罷越申候、尤町内が金式朱差出し候ニ付、七軒町が金壹分式朱つゝ、以来差出し呉候様御取極相成候間、為心得之記置もの也

九月廿九日丙卯 天氣

一、今日何れも罷出候、伊賀町家主源兵衛が嘉七店金三郎江相掛候一件、大泉ニ而立会有之候処、全金三郎父久米右衛門義、質入候義と、(正舊)締柄相弁候ニ付、反对談取極メ、明二日罷出候節、対談書差上可申答示談行届申候

十月朔日丁辰 天氣

一、今日者何れも罷出、加々屋ニ罷在申候、味噌相場直し、今日仕

置申候

十月二日^(乙) 天気

一、今日加々屋^(マ)ニ而久世様御家老井出次右衛門殿・堀江桑藏殿其外内田彦四郎殿取扱ニ而

東久世様諸大夫方渡辺専衛様・柘植靱負様御兩人御越被成候間、後代無辺之義ニ付、為念記置もの也

十月三日^(丙) 天気

一、地代取調卷ヶ年分御借上ヶ相成可申旨御達、兩三日中差出可申旨被仰渡候

同月四日^(丁) 天気

一、地代書上ヶ之義ニ付、支配中区々々不相成候様ニ可差出旨、通七ヶ町并御扶持人共天王別当所へ寄合有之候

十月五日^(戊申) 天気

一、今日富山義、古式朱金一件之義ニ付、御呼出し、東京府ニ而落着相成、被仰渡候覚

其方共義、不埒之義有之、咎可申付処、今春朝政御一新ニ付、御元服之御大札被執行

御仁恤之情慮ヲ以、当正月十五日以前之罪人

明治元年十月朔日〜八日

朝敵其餘大逆無道一切を除之外、大赦被 仰出候ニ付、一同答

差免、尤兩替渡世之義ニ而人氣騒立候自儘之相場相立候ニ付、

歩増并過金売徳共取上可申旨被仰渡、富山義も取扱候代金三百

九拾式兩老分式朱銀十式匁三分七厘式毛御取上ヶ可相成旨被仰渡候

十月六日^(己酉) 天気

一、今日町入用取集相濟、三井納濟

一、富山古式朱金一件、今日金七拾五兩相納メ、殘金之義者、来十五日無相違上納可仕旨、日延書差出申候

十月七日^(庚戌) 天気

一、町入用取集置候得共、昨日不相濟候間、今日不殘諸払仕置候間、認置もの也

十月八日^(辛亥) 天気

一、今日七拾歳以上之もの調致置、名主所江差出申候間、記置もの也

一、年番箱江諸勘定書仕候処、入金分金三兩式分老朱ト六百文有之候処、金式兩時借仕り、差引金老兩式分老朱ト六百文入置候間、記置もの也

一、今晚ハ堀端木戸番所江銃隊方式人ツ、詰合相成候間、火鉢其外土瓶・茶碗等差出可申旨被申聞候間、不取敢同所江差出申候

明治元年十月九日〜十七日

十月九日壬子 天氣

一、今晚之義者、前同様兵隊詰所江罷越申候

十月十日癸丑 天氣

一、七拾才以上之もの支配限り書上ヶ可申旨、名主方より取集、合冊
ニ致し差出可申旨被申渡候間、早朝ヶ相詰罷在候

十月十一日甲寅 天氣

一、上総屋喜兵衛殿方ニ而認物有之、昼夜共罷在候
一、昨夜八つ時頃浅草隨身門外出火、弁当焚出し候

十月十二日乙卯 天氣

明十三日 御着御有之候旨被仰渡候

一、家主中寄合有之、番屋之義者、片側出有之、尤(編カ)籠引ニ而北側出ニ
相成、夜喰等相焚、定例之通り豆腐汁ニ而別段ニ煮染等相付、手
輕ニ相拵申候

十月十三日丙寅(辰) 天氣

一、家主中西側出、尤欠付式人相雇、昨夜可申旨、赤坂本營隊長ヶ被
仰渡候間、弥三郎・甚藏雇上ヶ申候

一、聖上様、今昼八つ時頃西城江御引込ニ相成申候、真珠(ツ)ニ穩ニ御座

候

一、加々屋親類池の端ニ嘉祖父病死ニ付、今曉明ヶ六つ時頃葬式、三
甚・青梅屋・桶屋・伊豆屋・鼈鉄・田中屋其外ニ而無滞相済申候

十月十四日丁卯(巳) 天氣

一、今日之義者 御着翌日ニ付、諸大名方者不及申、惣出仕と相唱来
候処

御東臨相成候ニ付、参内と相唱可申候事

十月十五日戊辰(午) 天氣

一、上総屋喜兵衛方ヶ大岡主膳(忠實)正様御領分、上総国夷隅村百姓治郎吉
外拾六人江相懸候給金滞出入訴訟ニ罷出候処、今日之義も前同様
参内ニ而相休相成候事

十月十六日己巳(未) 天氣

一、右断(マ) 罷出候処、惣出仕之事
帰路途中西丸下江相廻り候処、細川越中守様御参内有之、帰館之
義者訓練ニ而相帰申候

十月十七日庚午(申) 天氣

一、喜兵衛ヶ上総国夷隅郡関谷村百姓治郎吉外拾六人江相懸り候一
件、御東京府江罷出候処、訴状上ヶ置被仰付候

十月十八日辛未^(酉)

七ヶ町金五拾兩差出可申管取極メ、追而入用之節者月番町々々立替差遣可申管取極候間、記置もの也

十月十九日壬申^(戌) 天氣

十月廿三日丙子^(寅) 天氣

一、今日上総屋一件、呼出し訴状御調有之、尾崎様御懸りニ而、人別写相添可相納旨被仰渡候

一、富山今日呼出有之、罷出候処、古式朱金一件中島様今日猶亦年番江引渡候間、同所罷出可申旨被仰聞候間、年番江罷出候処、明廿四日可罷出旨被仰渡候

十月廿日癸酉^(亥) 天氣

一、昨廿二日庄吉店文正義、御救願罷出候処、白米壹斗五升錢四貫三百文被下候ニ付、直様庄吉殿宅江差出、受取書取之、書面名主高鳥氏宅江差出申候

一、今日上総屋一件、人別写差出候得者、追而^(マ)
一、金三郎一件、今日壹兩貳分相渡、廿日出

一、今日富山古式朱金一件、東京府江罷出候処、今般年番所江引渡相成候ニ付、早々皆納可仕旨被仰渡候、依之来出日日出日延

一、今日富山一件、無金ニ而日延仕候処、年番ニ而取扱有之候処、吟味所江御渡し相成、中島様之御懸りニ而追而御沙汰有之旨被仰渡候

十月廿四日丁丑^(卯) 天氣

一、支配書役中高島氏宅江罷出、渡世調書纏メ書上ヶ被仰出候間、相認同夜九つ時迄同所ニ罷在候、永田屋珍平殿罷越申候

一、須賀社別当宝藏院義、復飾之義ニ付、昨廿三日神田木林隼人并柴崎大隅社役高石衛門と申仁と兩人ニ而高島氏江罷越、今般別当義、兩社神主宝田藏人と相改、復飾仕度旨申出候得共、左候得者向後異論之基ニ而往々安心不仕、依之宝藏院義者、稻荷社神主と為願度、兩社神主と申義者、迷惑之旨被申聞、若亦御世話人中并氏子町々右承知ニ而為願候義ニ候ハ、素々神田天皇神靈^(マ)写し、願濟之義ニ付、指揮ニ寄須賀社之義者神田明神境内江引取可申旨被申聞、依之高嶋氏^(マ)氏子世話人・町々行事共江申談置候間、明後

十月廿一日甲戌^(子) 天氣

一、別当藏法院義、今般神主ニ可相成旨被仰出候間、氏子町々寄合之上、宝藏院弟子密乘相改宝田藏人と相唱可申旨、惣町行事衆中江風聴^(マ)仕候、尤武士地^(マ)金貳拾兩差出可申、鮫河橋^(マ)金拾兩、通

一、別当藏法院義、今般神主ニ可相成旨被仰出候間、氏子町々寄合之上、宝藏院弟子密乘相改宝田藏人と相唱可申旨、惣町行事衆中江風聴^(マ)仕候、尤武士地^(マ)金貳拾兩差出可申、鮫河橋^(マ)金拾兩、通

十月廿二日乙亥^(丑) 天氣

一、別当藏法院義、今般神主ニ可相成旨被仰出候間、氏子町々寄合之上、宝藏院弟子密乘相改宝田藏人と相唱可申旨、惣町行事衆中江風聴^(マ)仕候、尤武士地^(マ)金貳拾兩差出可申、鮫河橋^(マ)金拾兩、通

一、別当藏法院義、今般神主ニ可相成旨被仰出候間、氏子町々寄合之上、宝藏院弟子密乘相改宝田藏人と相唱可申旨、惣町行事衆中江風聴^(マ)仕候、尤武士地^(マ)金貳拾兩差出可申、鮫河橋^(マ)金拾兩、通

一、別当藏法院義、今般神主ニ可相成旨被仰出候間、氏子町々寄合之上、宝藏院弟子密乘相改宝田藏人と相唱可申旨、惣町行事衆中江風聴^(マ)仕候、尤武士地^(マ)金貳拾兩差出可申、鮫河橋^(マ)金拾兩、通

一、別当藏法院義、今般神主ニ可相成旨被仰出候間、氏子町々寄合之上、宝藏院弟子密乘相改宝田藏人と相唱可申旨、惣町行事衆中江風聴^(マ)仕候、尤武士地^(マ)金貳拾兩差出可申、鮫河橋^(マ)金拾兩、通

一、別当藏法院義、今般神主ニ可相成旨被仰出候間、氏子町々寄合之上、宝藏院弟子密乘相改宝田藏人と相唱可申旨、惣町行事衆中江風聴^(マ)仕候、尤武士地^(マ)金貳拾兩差出可申、鮫河橋^(マ)金拾兩、通

明治元年十月十八日〜二十四日

明治元年十月二十四日(二十七日)

廿五日可罷出旨及挨拶候趣、昨廿三日御談ニ付、今日双方立会、
神田神主と別当江示談之上、藏人義復飾願可仕旨、世話人行事高
島氏立会、内話示談取極、多分入用相懸り申候

十月廿五日(戌寅) 天氣

一、今早朝木村隼人并崎柴大隅社役ニ而高石右衛門と申仁と兩人ニ
而被 罷越候間、七ヶ町寄合、当町番屋ニ而支度致し、木村隼人
方も種々懸合有之、応躰之上、双方示談咄行届、双方為取替證文
可仕旨之、名主立会以來差支無之様可仕旨取極メ、宝藏院義氏子
町々世話人中江無沙汰ニ今廿五日東京府へ奉願上、御聞濟相成候
旨申出候間、木村氏江對世話人一同申訳無之候間、木村氏其外義
者相送、其跡ニ而行事・名主共宝藏院義者以來勝手次第可致旨申
断候間、記置もの也

十月廿六日(己卯) 天氣

一、別当宝藏院義、安田一得先生を相頼ミ、惣町名主衆中并相詫候ニ
付、木村氏江為趣著と宝藏院義復飾之義願下ヶ可仕管、詫書一札
差出候旨、申聞候処左之通

差出申御詫書之事

一、今般 御一新ニ付、別当宝藏院御廃止ニ相成、復飾之義難及自
力ニ、氏子町々多力相願度旨、名主方江万事御頼申置候処、当
月廿四日神主木村隼人方申出候義も有之候ニ付、向論無之様

御心配被成下置候ヲも不顧、一己之心得ヲ以復飾并両社神主之

義、昨廿五日 東京府へ願上ヶ、御聞濟ニ相成候段、御届ヶ申
出候処、願書差出し候ハ、一応相談可仕候、無沙汰ニ願出候
義者氏子町々気受ニも相抱、且各々方木村氏江對談被下候義
も有之候間、御世話人中御手引相成候旨被申聞、今更先非後悔
一言之申訳も無之、重々恐入候、依之一得殿御頼申候処、御同
人厚キ御取扱、格別之思召ヲ以、此度之義者御聞濟被下、忝存
候、右ニ付復飾之義者早々願下ヶ仕り、先前之御取扱ニ基キ、
一己之存寄ヲ以諸事取計等決而仕間敷、為後證詫書差出候処、
仍如件

明治元年十月廿六日

須賀社別当 宝藏院 印

高島孫右衛門殿

氏子町々
御世話人衆中

右之通詫書取置申候、依之認置申候、以上

一、明廿七日武州一ノ宮氷川社江

天子様 御臨幸ニ付、町々火之元之義者別而入念、火之元見廻方
可仕旨被仰渡候間、依之寄合之上、六人番左之通り、清次郎・安
右衛門・珍平・嘉七・喜兵衛・市右衛門夜番相勤申候、尤店番人
呼上ヶ、時半・小半共厳重見廻り申候、尤月行事秀次郎御座候

十月二十七日(庚辰) 天氣

一、儀左衛門・五郎兵衛・五兵衛・庄次郎・甚右衛門・鉄五郎 番相
勤申候

一、町入用下勘定相済申候

一、同夜番忠兵衛・庄吉・庄三郎・惣七・秀次郎・清吉
右之通夜番相勤申候

十月廿八日 (マ) 天気

一、清次郎・安右衛門・珍平・嘉七・喜兵衛番役相勤候

今日押切帳押切致、相賦り申置候、以上

市右衛門・儀左衛門・五郎兵衛・五兵衛・庄次郎・甚右衛門

夜番相勤申候、今晚五つ時頃名主方より左之

一、主上様大宮水川社 御参詣相済、明廿九日

還御相成候旨、御触達有之候

一、四谷町々番役勤方不宜候旨、赤坂本営より御沙汰有之旨御達、明

廿九日同所江可罷出旨之御達書有之候間、記置もの也

十一月廿九日壬申 (マ) 天気

一、今廿九日忠兵衛・庄吉・庄三郎・兵藏・惣七・清吉 (マ)

主上様今八つ時頃加州様御小休ニ而

還幸相成申候、右三付、家主衆中参詣ニ罷越拜ミ申候

一、加々屋前やせまん義築地江罷越申候 (マ)

十一月卅日癸酉 (マ) 天気

一、天王様别当所宝藏院義二付、高島氏ニ而一同寄合有之、内辞取極
申候上ニ而、宝藏院事宝田織江と相改、向後異論無之、為取替證
文仕度旨、下案相認宝藏江為申聞置申候

十一月朔日甲戌 天気

一、宝田織江名前替之義、木村隼人と向後無之為取替之義二付、高島
氏、神田之前書之木村方へ罷越申候処、明二日之義者差支無之故
出張可致旨被申聞候趣、示談取極申候

十一月二日乙亥 天気

一、木村氏義参、高嶋氏宅ニ而宝藏院義も罷越候間、本松斎一得先生
取扱ニ而双方取替セ證文江者宝田織江方ニ而者奥印之義、名主高島
孫右衛門氏、木村隼人方之奥印、神田明神神主柴崎美作守奥印ニ
而取替セ一条、書面程村紙式枚統ニ而相認置申候、尤外ニ織田・
木村兩人、別段為取替有之候間、記置もの也

十一月三日甲子 (丙) 天気

一、明四日東京府江市中一同惣町ニ而老入つゝ頂戴之もの罷出可申旨
御沙汰有之候間、惣町ニ而四谷惣町中と申職相認罷出可申旨打合、
老町老入つゝ行事差添可罷出旨打合仕候

明治元年十月二十七日〜十一月三日

明治元年十一月四日〜九日

十一月四日^(丁)乙丑 天氣

一、今朝五つ時揃二而、東京府罷出候処、四谷中江戎鯛と申樽三拾六樽被下置候間、惣町人足雇上ヶ二而罷出申候処、外組合并町々之義者車二而持運候間、四谷町々之義も無餘義車力を相雇、車三輛代金四兩也、伝老近源ニテ立替相払申置候間、記置もの也

十一月五日^(戊)丙寅 天氣

一、昨日御酒頂戴ニ罷出候節、打合不仕罷出候趣、家主中ノ御談有之候得共、全ク諸入用等相懸申間敷、手輕ニ取計申度存意ニ而永田屋氏相談之上ニ而仕置候間、其段家主衆中江無相談簡略ニ而取計候段、伊豆屋其外江詫入御聞濟相成申候

一、今日高島氏宅ニ而御酒割渡有之、支配竈数式千式拾軒^(式脱カ)江御酒頂戴高三拾六樽、老樽ニ付式斗五升入と見積、割合候得者、四樽と老斗老升不足相成候間、惣町相談之上、新老中源ニ而買求メ、代金拾七兩式分ニ而買求、割合仕置候間、記置もの也

十一月六日^(己)丁卯 天氣

一、昨夜御酒渡割後惣町^(マ)此居付方自身番屋江寄合、御神酒開仕候処、真珠^(マ)ニ目出度義ニ付、町内未聞之義者候得共、自身番屋ニ而藝者呼上ヶ祝義等差出し稀成義ニ付、記置もの也

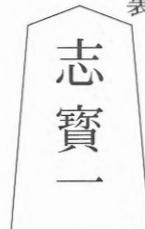
一、今日町内ニ而踊屋台出来、但狂言之義者左之朝比奈其外三人之踊ニ而、珍敷見事ニ出来仕候、出し練物之義者頂戴之御酒三樽外ニ將

某之駒ニ而左之通

表



裏



右之通り車ニ而引出し候処、外町々之義者今日之義者踊出来不申候得共、町内之義者前書之通り差出し候得共、首尾能相濟候ニ付、今晚之義者是迄ニテ相仕舞申候間、認置もの也

十一月七日^(庚)戊辰 天氣

一、今日之義者、惣町老丁目其外町々、四谷御門外江繰出し相成、真珠^(マ)ニ見事ニ出来仕候、尤拾三丁目迄ニ而引返し相成申候、四谷町々之義者、内藤新宿上町迄罷越、其後町内江も不洩相廻り申候

十一月八日^(辛)己巳 天氣

一、惣町祭禮ニ罷出候方々禮廻リニ罷越申候
一、町内之義者、家主方一同寄合之上、惣勘定書取集候処、惣縊高百廿五兩ニ相嵩候間、重立方々種々御心配被下左之通り^(以下記載なし)

十一月九日^(壬)午 天氣

一、右出銀方割合之義ニ付、家主一同寄合、種々心配罷在候間、為念

記置もの也

十一月十日 癸未 (マ) (マ)

一、同夜深川八幡前出火有之、出半鐘打候二付、今日夜当番二付、御堀端迄罷出候処、無間も引取申候処、弁当焚出仕候

一、金三両若者衆中江骨折として前書之通り差出し、女中江骨折として金式分差遣申候

十一月十一日 甲申 (マ) (マ)

一、若物衆中、家主儀左衛門殿宅ニ而御神酒開キ有之、賑々敷御座候

十一月十二日 乙酉 (マ) (マ)

一、今日相木屋の三つ割樽老つ被差遣候二付、惣町家主中江番屋寄合御神酒開仕候

十一月十三日 丙戌 (マ) (マ)

一、御酒被下諸入用高島氏宅ニ而割合仕候処、式千貳拾貳軒ニ割、老竈二付銀老奴六分五厘割合仕候、来十五日取集候積り

十一月十四日 丁亥 (マ) (マ)

一、昨十三日御酒頂戴諸入用割合之義者、高島氏宅ニ而仕候、尤惣町世話人・行事罷出申候

明治元年十一月九日〜十六日

十一月十五日 戊子 天氣

一、今日御酒被下一件二付、諸入用割合取集メ申候処、集り兼申候
一、富山古式朱金一件、来ル晦日出

十一月十六日 己丑 天氣 (マ) (マ)

一、今日市右衛門店金次郎後家かね娘つる方江、秋田金平と申もの罷越、押借致候二付、前書金平義御召捕ニ相成、腰竹屋敷江引合ニ被相呼、引合書面差上、追而 (マ) (マ)

一、今十六日晚より新嘗祭、十八日

天皇様 御拜被為在候二付、今晚より夜番・小口番、市右衛門・儀左衛門・五郎兵衛、七軒町も都合四人詰番相成申候

昨十五日川島方も左之通り炭被相送候二付、控
一、六拾俵 老車 両二七〇がへ

此運ちん 七貫五百文

一、四表 (マ) (マ) 金式分老貫四百六十四文 肴屋分

一、貳表 (マ) (マ) 金老分七百六十四文 丸屋分

一、貳表 (マ) (マ) 同断 建場

一、四表 (マ) (マ) 金式分ト老貫四百六十四文 籠屋分

一、四表 (マ) (マ) 金式分ト老貫四百六十四文 山田屋分

一、貳表 (マ) (マ) 今虎分

一、老表 (マ) (マ) 肴屋へ返済

明治元年十一月十六日〜二十四日

一、式表(マ)

徳兵衛分

一、巻表(マ)

番屋焚候分

一、拾三表(マ)

山田屋裏積置

一、廿五表(マ)

番屋積置

右之通り御座候間、記置もの也

十一月十七日(マ)

一、今日義者、新嘗祭と申、天王様自ら新穀天地之神ニ供奉候御祈禱有之候ニ付、町中火之用心之義、昨十六日晚より家主三人つゝ昼夜自身番屋正相詰、夜喰焚出し有之

十一月十八日(マ)

一、今日新嘗祭御当日

天皇様御拜被為在候ニ付、今昼夜ニ而家主一同詰合番、小口一ト廻り仕廻候筈ニ而、喜兵衛殿迄

十一月十九日(マ)

一、今日家主庄三郎殿、福次郎と申ものゝ古小判式枚相預り置、代金四両式分貸遣し候一件、盜賊義者福次郎店受人ニ而久蔵御召捕ニ相成、不正之由被申聞候

十一月廿日(マ)

一、秋田金平一件引合、市右衛門店金次郎後家てゐる娘(マ)引合罷出候処、引合多分有之、三村様御懸ニ而始末書差上、追(マ)

一、暮六つ時頃、市谷八幡町ニ而出火有之、出打候ニ付、弁当相焚申候

一、御酒頂戴一件、儀左衛門殿方ニ而、酒喰代不足ニ付、金四両三分

老朱ト八十八文不足ニ付、差出呉候様申出候ニ付、前書出銀申出候ニ付、寄合仕候処、不居合候ニ付、明日迄又候寄合仕候積

十一月廿一日(マ)

十一月廿二日(マ)

十一月廿三日(マ)

一、今晚儀左衛門殿一件、寄合之上、家主人数式拾人より、老人ニ付金式朱つゝ儀差出候処、金式両式分相成候間、右之外取集金式兩式分三朱ト五百六十六文、都合金五両三朱ト五百六十六文、右之内金四両三分老朱ト百四十八文儀左衛門殿申出候高相払、殘金老分式朱ト五百十八文之義者、寄合之砌、荒井谷ニ而切餅相求候而煮雜致し、家主中ニ而支度仕候

十一月廿四日(マ)

十一月廿五日 (マ)

十一月廿六日 (マ)

十一月廿七日 (マ)

一、今日定例之通り、町入用下勘定仕候

十一月廿八日 (マ)

一、今日番屋ニ罷出、押切帳認罷在候

一、今日加々屋三次郎様五才之祝義ニ而須賀社其外江御供ニ而罷出申候、神楽坂江も罷越申候

十一月廿九日 (マ)

一、天王世話人中と木村述門方江罷越、同所ニ而麴酒計罷出候間、帰り支度高嶋氏宅ニ而不残仕候、尤同所ニ而待合罷在候砌、蕎麦相求、近源氏其外ニ而支度仕候

十一月晦日 (マ)

一、昨廿九日、両社神主宝田織江召連、木林述門方江罷越、返り途中相談仕り、勸化札町々別札ニ而張出可然旨打合仕候

十二月朔日 (マ)

一、須賀社ニ而来十四日・十五日太破仕候ニ付、惣町江人形紙ニ而相渡候間、御扶持人并鮫橋其外世話人中同道ニ而巡行

十二月二日 (マ)

一、惣町勸化札、須賀社庭前江差出候義ニ付、鮫河橋名主兩人方江打合ニ罷越申候、尤鮫河橋町々之義者、小間割合之義ニ付、滞銀等有之候間、金ニ相纏メ札差出申候

十二月三日 (マ)

一、今日須賀社社殿其外模様替ニ付、諸入用多分相懸り候間、七ヶ町ニ而九拾三兩割、尤町内分金拾五兩ニ相当候間、町内ニ而寄合仕候

十二月四日 (マ)

一、秀次郎店吉兵衛義、西川岸町権兵衛地借金三郎方へ、妻すみと申もの雇ニ先達而差遣置候处、相返シ不申候ニ付、訴訟可仕旨及懸合候处、先方も立会致呉候様被申聞候間、中通り道具屋へ罷越、木の元と申仁も種々懸合有之候处、行届候間、同所名主千柄清右衛門殿江申出候处、今日牛込御門外琴吹と申水茶屋迄罷出候处、小日向水道町長次郎店熊右衛門并同人家主長兵衛罷越居候間、立会之趣懸合及候处、来春迄日延而已被申聞候間、立合不行届、夕七つ時頃同所引払申候

明治元年十二月五日～十一日

十二月五日 (マ) (マ)

一、今日吉兵衛義、出訴罷出候処、十二月十二日出之御裏書頂戴仕候

十二月六日 (マ) (マ)

一、町入用取集相済、三井迄相済

十二月七日 (マ) (マ)

一、今日之義者、御酒被下候砌、惣入用弘方にて、終日番屋ニ相暮罷在候

十二月八日 (マ) (マ)

一、天皇様今日御出輦ニ付、拜見ニ罷出候処、刻限御還幸者正六つ時御還御ニ付、間ニ合ひ不申候間、築地異人館其外江罷越候而相帰申候

十二月九日 (マ) (マ)

一、今日神谷氏宅江罷出申候処、種々御咄し有之、為酒代と金百疋被下候

一、今日捕亡方御預ケ物有之、珍平行事・五人組嘉七、夜番之義者甚右衛門・嘉七殿・鉄五郎殿兩人ニ御座候、尤囚人当時無宿伊三郎と申ものニ御座候

十二月十日 (マ) (マ)

一、今日富山古式朱金一件

一、両社模様替其外別当復飾入用割合惣勘定、同所拜殿ニ而割合仕候

一、金拾両鮫河橋氏子町々々出銀相成申候

一、今晚番屋机之引出し引置候金三朱并はさみ紛失仕候、清助錢箱ニ入置候錢式貫文同断紛失仕候

極月十一日 (マ) (マ)

一、昨日勘定残、所々江相払申候、今日翠簾出来金四両之内、金式兩先達而相渡、残金式兩之義者今日相渡、尤上石神井屋吉之助分相払申候

一、御酒頂戴諸入用之内、人足給分、老人ニ付式朱つゝ新巻・伝式・伝三・伊賀・新堀其外江相渡申候

(裏表紙)

塩 巻

カキヤク

徳 兵 衛